

**I-O DATA**

NEC PC98-NXシリーズ

DOS/Vマシン

NEC PC-9800シリーズ

Macintosh 対応

Ultra SCSI/SCSI-2対応 MO ドライブ

**MOA-SM640W**  
**MOF-RM/SMS SERIES**  
**取扱説明書**

ダミー表紙付

株式会社 **アイ・オー・データ機器**

77283-01

## 【ご注意】

- 1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。  
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
- 2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
- 3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。
- 4) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。  
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
- 5) 本サポートソフトウェアの使用にあたっては、バックアップ保有の目的に限り、各1部だけ複写できるものとします。
- 6) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
- 7) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
- 8) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
- 9) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関する設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
- 10) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に關し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is only suitable for use in Japan. We shall have no liability for any damages arising from the use or inability to use this product in other countries. We neither provide any technical support and/or after-service for the use of this product abroad.)
- 11) お客様は、本サポートソフトウェアを一時に1台のパソコンにおいてのみ使用することができます。
- 12) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
- 13) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。
- 14) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。

- I-O DATAは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
- Microsoft, Windows, Windows NT, MS, MS-DOSは、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。
- IBMおよびATは、IBM Corp. の登録商標です。
- Apple, Macintosh, Power Macintosh, Mac, Mac OSロゴおよびその標章は、米国Apple Computer, Inc. の登録商標です。
- RINGOWINIは富士通株式会社の登録商標です。
- “GIGAMO”は商標です。
- B'sCrewおよびB'sCrewのロゴは株式会社ビー・エイチ・エーの登録商標です。
- その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

MOA-SM640W・MOF-RM/SMシリーズ 取扱説明書

2000. Aug. 01 77283-01

発行 株式会社アイ・オー・データ機器

〒920-8512 石川県金沢市桜田町3丁目10番地

© 2000 I-O DATA DEVICE, INC. All rights reserved.

本製品および本書は著作権法により保護されておりますので  
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。

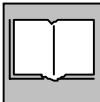
ここにVERシールをお貼りください

VERシール

ここにVERシールをお貼りください

VERシール





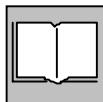
# お読みになる前に ●



このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。  
ご使用の前に本書をよくお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いします。

## ● 呼び方

呼び方	意味
MOF-RMシリーズ	MOF-RM1300, MOF-RM640およびMOF-RM230の総称
MOF-SMシリーズ	MOF-SM640およびMOF-SM230の総称
MOF-RM/SMSMシリーズ	MOF-RMシリーズおよびMOF-SMシリーズの総称
MOA-AX/USBシリーズ	MOA-AX640S/USB, MOA-AX230H/USB, MOA-AX640SW/USBおよびMOA-AX230HW/USBの総称
MOA-AX/CBIDE シリーズ	MOA-AX1300W/CBIDE, MOA-AX640SW/CBIDEおよびMOA-AX230HW/CBIDEの総称
Macintoshシリーズ	Macintosh, Power Macintosh, Power Macintosh G3/G4, PowerBook, iMacおよびiBookの総称
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Operating System、およびMicrosoft® Windows® 98 Operating System Second Editionの総称
Windows 98 SE	Microsoft® Windows® 98 Operating System Second Edition
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 Operating System
Windows 98/95	Windows 98, Windows 95の総称
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Operating System Version 4.0
Windows 98/95/2000/ NT 4.0	Windows 98, Windows 95, Windows 2000およびWindows NT 4.0の総称
Windows 98/95/NT 4.0	Windows 98, Windows 95およびWindows NT 4.0の総称
Windows NT 3.51	Microsoft® Windows NT® Operating System Version 3.51
Windows 3.1	Microsoft® Windows® Operating System Version 3.1
Windows	Windows 98/95/2000/NT 4.0, Windows NT 3.51, Windows 3.1の総称
CBSC II シリーズ	CBSC II, CBSC II FおよびCBSC II Aの総称
SC-UPCI シリーズ	SC-UPU2, SC-UPCI, SC-UPC1B, SC-UPC1NおよびSC-UPC1NBの総称
SC-NBUN シリーズ	SC-NBUN, SC-NBUNAおよびSC-NBUNFの総称
SC-NBPCI シリーズ	SC-NBPCI, SC-NBPCI AおよびSC-NBPCI Bの総称
SC-AP シリーズ	SC-APU, SC-APUS, SC-APUWおよびSC-APU2の総称
SC-APUN シリーズ	SC-APUNおよびSC-APUNSの総称
PCSC-F シリーズ	PCSC-F, PCSC-FF, PCSC-FAおよびPCSC-FPの総称



## もくじ



お読みになる前に.....	i
もくじ .....	ii

### はじめに..... 1

本製品を使えば .....	2
箱の中には .....	4
動作環境 .....	10
ユーザー登録しよう .....	13
取り扱いおよび使用上の注意 .....	15
実行用ディスクを作ろう .....	17
各部の名称・機能 .....	18
添付品を取り付けよう .....	22
取り付ける前に .....	27
取り付けよう .....	28
ご使用のOSは？ .....	31

### Windows 98/95/NT 4.0でご使用の場合..... 33

SCSI-IDを設定しよう .....	34
インストールしよう .....	35
遅延書き込みについて .....	40
MOディスクを使ってみよう .....	42
MOディスクの使い方 .....	43
フォーマットしよう .....	44
MOディスク使用上の注意(Windows NT 4.0のみ) .....	47
MOディスクから起動するには .....	
(PC-9800シリーズのWindows 98/95のみ) .....	49
インストールされた情報を削除するには .....	50

**Windows 2000でご使用の場合 ..... 53**

SCSI-IDを設定しよう .....	54
インストールしよう .....	55
MOディスクを使ってみよう .....	59
MOディスクの使い方 .....	60
ユーティリティを使おう .....	61
インストールされた情報を削除するには .....	65

**Windows NT 3.51でご使用の場合 ..... 67**

SCSI-IDを設定しよう .....	68
インストールしよう .....	69
MOディスクを使ってみよう .....	71
MOディスクの使い方 .....	72
フォーマットしよう .....	74
インストールされた情報を削除するには .....	75

**Windows 3.1、MS-DOSでご使用の場合 ..... 77**

SCSI-IDを設定しよう .....	78
インストールしよう .....	79
MOディスクを使ってみよう .....	83
MOディスクの使い方 .....	84
フォーマットしよう .....	85
MOディスクから起動するには(PC-9800シリーズのみ) .....	87

## もくじ

### Macintoshシリーズでご使用の場合 ..... 89

SCSI-IDを設定しよう .....	90
MOディスクを使ってみよう .....	92
MOディスクの使い方 .....	93
イニシャライズしよう .....	94

### 付録 ..... 99

困ったときには .....	100
HDDモードについて .....	113
RINGOWIN LEについて .....	116
B'sCrew Backup for Windowsについて .....	117
DOSドライバ詳細 .....	119
用語解説 .....	127
オプション品について .....	129
ハードウェア仕様 .....	130
サポートセンターへのお問い合わせ .....	132
サポートソフトのバージョンアップ .....	134
保証について .....	135
修理について .....	136

# はじめに

## 本製品を使えば

本製品の使用例を紹介します。 (2ページ)

## 箱の中には

箱の中のものを確認します。 (4ページ)

## 動作環境

本製品を使うことができるパソコン環境を説明します。 (10ページ)

## ユーザー登録しよう

ユーザー登録をしてください。 (13ページ)

## 取り扱いおよび使用上の注意

本製品を使うにあたって、注意しなければならないことを説明します。 (15ページ)

## 実行用ディスクを作ろう

サポートソフトの予備を作ります。 (17ページ)

## 各部の名称・機能

本製品のスイッチなどの名前と機能を説明します。 (18ページ)

## 添付品を取り付けよう

添付品を取り付ける方法を説明します。 (22ページ)

## 取り付ける前に

本製品を取り付ける前にすることを説明します。 (27ページ)

## 取り付けよう

本製品をパソコン本体に取り付けます。 (28ページ)

## ご使用のOSは？

ご使用のOSにあった箇所をお読みください。 (31ページ)

# 本製品を使えば

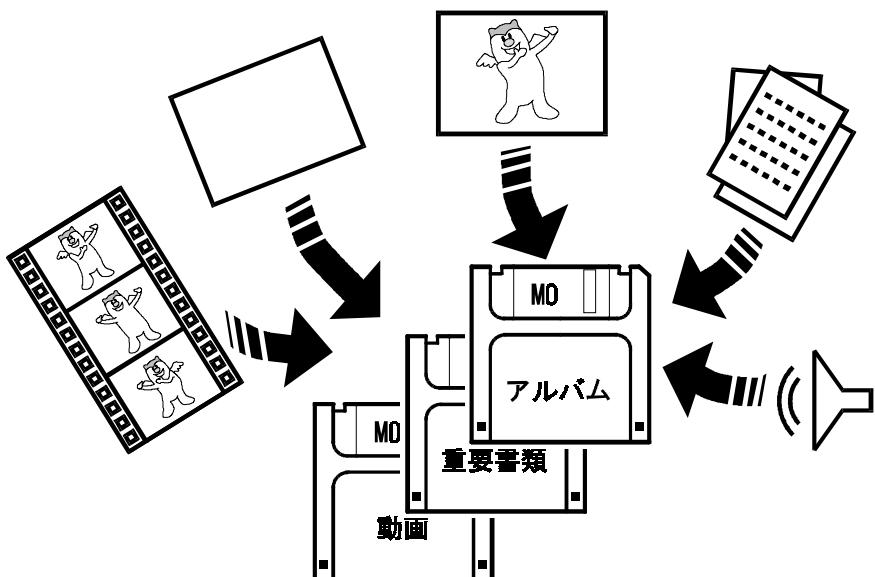
本製品は、以下のようにお使いいただくことができます。

## ◆ 大事なデータの保存・バックアップに

仕事のデータ、デジタルカメラで撮った画像データ、キャプチャした動画などをMOディスクに入れておけば、ハードディスクの容量が少なくなるということがなくなり、誤ってパソコンのデータが消えてしまったときも安心です。

また、ラベルを貼つておけばデータの整理も簡単です。

また、本製品には、新キャッシュシステム「キャッシュ・ミレニアム」が搭載されており、従来に比べファイル書き込み時間が1300M/バイトのMOディスクの場合は最大で約40%、他のMOディスクの場合は最大で約15%短縮されます。

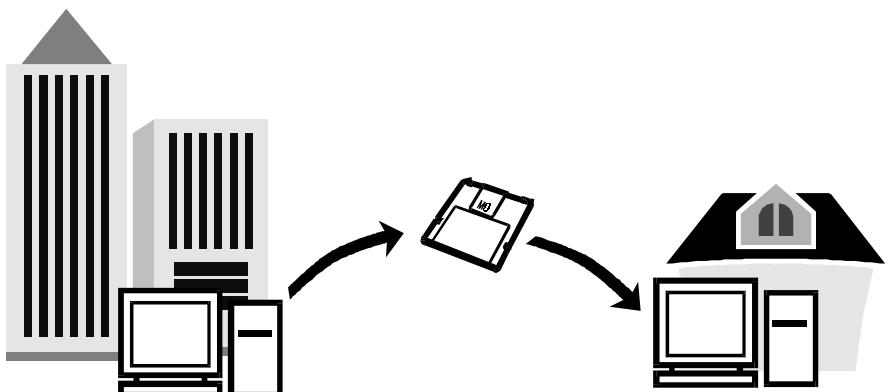


## ◆ 大きなデータの持ち運びに

ワープロ等で作った書類データや、デジタルカメラの画像データ等をほかの場所に持っていくとき、MOディスクに入れて持ち運べばOK。

フロッピーディスクよりはるかに容量が大きいので安心です。本製品には「RINGOWIN LE」※が添付されていますので、Macintoshとのデータ交換も行うことができます。

※【RINGOWIN LEについて】(116ページ)を参照してください。



# 箱の中には

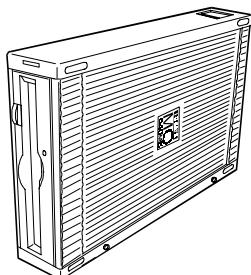
箱の中には以下のものが入っています。

にチェックをつけながら、ご確認ください。

万が一不足品がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

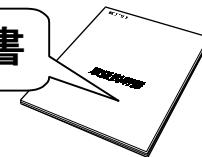
お願い：箱・梱包材は大切に保管し、修理などで輸送の際にご使用ください。

## MOA-SM640W

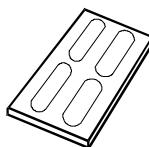


外付型MOドライブ(1個)  
[MOA-SM640W]

本書



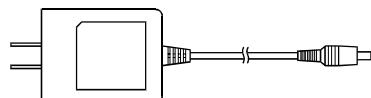
MOA-SM640W・MOF-RM/SMシリーズ  
取扱説明書(1冊)



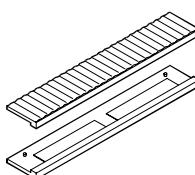
ラバーフット(4個)  
[横置き用]



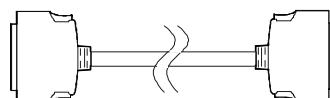
強制イジェクト・ピン(1本)



ACアダプタ(1個)

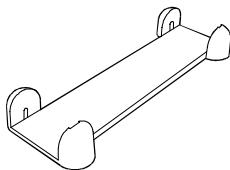


VAIO対応カラーサイドパーツ  
(2個×1種類)

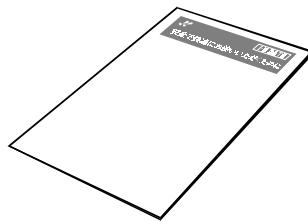


SCSI接続ケーブル(1本)  
[D-subハーフピッチ50ピン⇒  
D-subハーフピッチ50ピン:50cm]

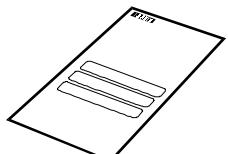
箱の中には



スタンド(1個)  
[縦置き用]



『安全で快適にお使いいただく  
ために』(1冊)



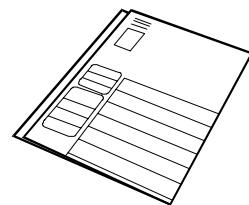
Verシール(2枚)



ハードウェア保証書(1枚)

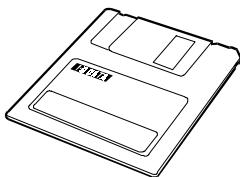


ハードウェアシリアルNo. シール  
(1枚)

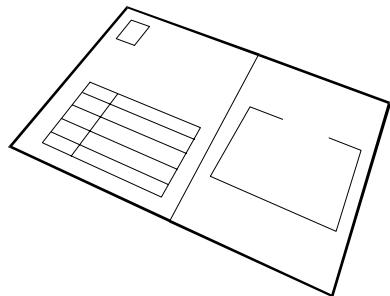


ユーザー登録カード(1枚)

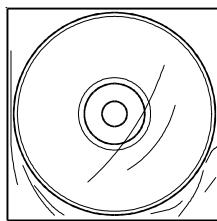
箱の中には



- MOF/MOAシリーズサポートソフト  
(1枚) [3.5インチ2DD (720Kバイト)]



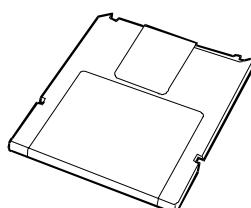
- ビー・エイチ・エー社  
ユーザー登録ハガキ(1枚)



- MOF/MOAシリーズユーティリティ  
ソフトCD-ROM(1枚)  
[「Windows 2000用MOユーティリ  
ティソフト」、「RINGOWIN LE」  
および  
「B'sCrew Backup for Windows」  
が入っています]



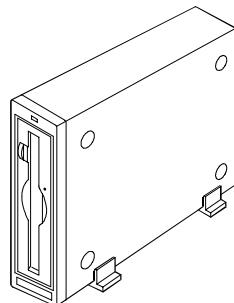
- ビー・エイチ・エー社  
シリアル番号シール(1枚)



- MOディスク(サービス品: 1枚)  
[640Mバイト: 未フォーマット]

箱の中には

### MOF-RM/SMシリーズ



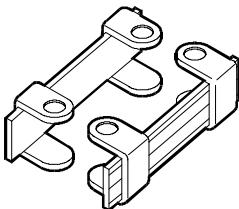
- 外付型MOドライブ(1個)  
[MOF-RM/SMシリーズのいずれか]



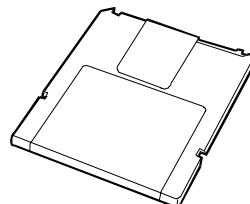
- MOA-SM640W・MOF-RM/SMシリーズ  
取扱説明書(1冊)



- 強制イジェクト・ピン(1本)

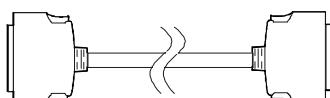


- スタックアダプタ(2個×1対)



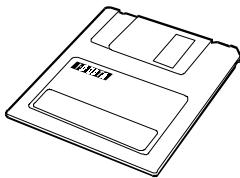
- MOディスク(サービス品:1枚)

[MOF-RM1300:1300M/バイト  
MOF-RM(SM)640:640M/バイト  
MOF-RM(SM)230:230M/バイト  
(未フォーマット)]

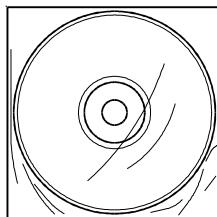


- SCSI接続ケーブル(1本)  
[D-sub/ハーフピッチ50ピン⇒  
D-sub/ハーフピッチ50ピン:50cm]

箱の中には



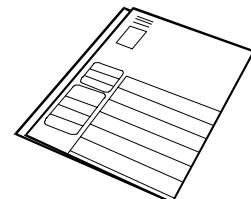
MOF/MOAシリーズサポートソフト  
(1枚) [3.5インチ2DD (720Kバイト)]



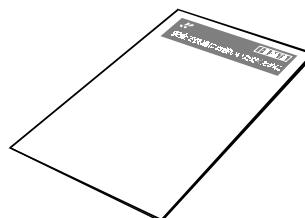
MOF/MOAシリーズユーティリティ  
ソフトCD-ROM(1枚)  
〔「Windows 2000用MOユーティリ  
ティソフト」、「RINGOWIN LE」  
および  
「B'sCrew Backup for Windows」  
が入っています〕



ハードウェア保証書(1枚)

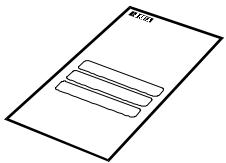


ユーザー登録カード(1枚)

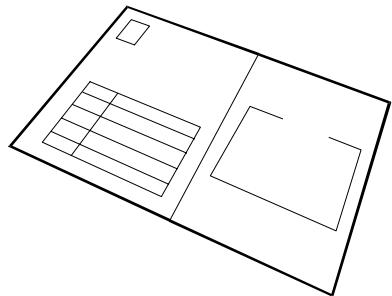


『安全で快適にお使いいただく  
ために』(1冊)

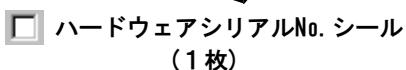
箱の中には



Verシール(2枚)



ビー・エイチ・エー社  
ユーザー登録ハガキ(1枚)



ハードウェアシリアルNo.シール  
(1枚)



ビー・エイチ・エー社  
シリアル番号シール(1枚)

# 動作環境

## ●対応機種および対応OS

対応機種	対応OS（日本語版のみ）
<b>NEC PC98-NXシリーズ※1</b>	Windows 98 (Second Edition含む) /95, Windows 2000, Windows NT 4.0※6
<b>DOS/Vマシン※1, 2, 3</b>	Windows 98 (Second Edition含む) /95, Windows 2000, Windows NT 4.0※6/3.51※7, 8, Windows 3.1およびMS-DOS (PC DOS) [MS-DOS Ver5.0/V(PC DOS J5.0/V)以降]
<b>NEC PC-9800シリーズ※1, 2</b>	Windows 98 (Second Edition含む) /95, Windows 2000, Windows NT 4.0※6/3.51※8, 9, Windows 3.1およびMS-DOS (PC DOS)※10 [MS-DOS Ver5.0以降]
<b>Apple Macintoshシリーズ※4, 5</b>	ご使用のフォーマッタソフト※11の対応OSを ご確認ください。

- 1 50ピンSCSI接続ケーブルでSCSIインターフェイスと接続可能であること。
- 2 CPU 80286 (MOA-SM640WIはCPU 486SX) 以上を搭載していること。
- 3 弊社では、OAGD加盟メーカーのDOS/Vマシンで動作確認を行っています。
- 4 50ピンSCSI接続ケーブルでSCSIインターフェイスと接続可能であること。
- 5 別途接続ケーブルが必要になる場合があります。
- 6 Windows NT 4.0 Service Pack 4以降のみ対応。  
「Service Pack」のバージョンの確認方法は、次ページをご覧ください。
- 7 640/1300MバイトのM0ディスクは使用できません。
- 8 Windows NT 3.51 Service Pack 5以降のみ対応。  
「Service Pack」のバージョンの確認方法は、次ページをご覧ください。
- 9 640/1300MバイトのM0ディスクは、フォーマット済みのものを使用してください。
- 10 640/1300MバイトのM0ディスクを使用する場合は、SCSI-IDが連続している他のSCSI機器と離して、SCSI-IDを設定する必要があります。  
(この場合、接続できるSCSI機器は6台まで)
- 11 本製品に対応しているフォーマッタソフトが必要です。  
ビー・エイチ・エー社製「B'sCrew」を推奨します。

## 《Windows NT 4.0 Service Pack のバージョン確認方法》

『マイクロソフト』の「ヘルプ」をクリックし、メニュー内の「バージョン表示」をクリックしてください。以下のようなメッセージが表示されます。

Version 4.0 (Build 1381: Service Pack 4) 

「Service Pack」の最新版は、マイクロソフト社のホームページからダウンロードが可能です。（<http://www.microsoft.com/japan/>）

## 《Windows NT 3.51 Service Pack のバージョン確認方法》

『プログラムマネージャ』の「ヘルプ」をクリックし、メニュー内の「バージョン表示」をクリックしてください。以下のようなメッセージが表示されます。

Version 3.51 (Build 1057: Service Pack 5) 

「Service Pack」の最新版は、マイクロソフト社のホームページからダウンロードが可能です。（<http://www.microsoft.com/japan/>）

### ●対応MOディスク

128M, 230M※1, 540M※1, 2, 640M※1, 2, 3, 1300M※3, 4/バイト

※1 オーバーライト対応MOディスクを含む。

※2 MOA-SM640W, MOF-RM1300, MOF-RM640およびMOF-SM640のみ対応。

※3 ハードディスク互換フォーマットはできません。

※4 MOF-RM1300のみ対応。

## ●SCSIインターフェイス

### 《動作確認済みSCSIインターフェイス》

NEC PC98-NX シリーズ, DOS/Vマシン, NEC PC-9800 シリーズ	弊社製	「SC-UPCIシリーズ」,「SC-NBUNシリーズ」,「SC-PCI」※1, 「SC-NBPCIシリーズ」※1,「CBSC II シリーズ」,「CBSC-A」, 「PCSC-Fシリーズ」
	Adaptec製	「AHA-2940AU/J97」※2,「AHA-2940J」※1,2, 「AHA-1520B」※1
	NEC製	「PC-9821X-B09」,「PC-9821X-B10」, 「PC-9821X-B02L」※2,「SV-98/3-B02」
Apple Macintosh シリーズ	弊社製	「SC-APUNシリーズ」,「SC-APシリーズ」
	Macintosh	標準SCSIポート※1 (D-sub25ピンタイプ、HDI-30ピンタイプ)

※1 SCSIインターフェイスの仕様により、Ultra SCSI転送の性能で利用できません。

※2 制限事項があります。下の表をご覧ください。

- 1) 使用するSCSIインターフェイスが対応していないOSでは、本製品を使用することはできません。
- 2) Windows 98/95, Windows 3.1およびMS-DOS(PC DOS)で、1台のマシンに複数枚のSCSIインターフェイスを接続して使用している場合は動作の保証はいたしかねます。

### SCSIインターフェイスによる制限事項

SCSIインターフェイス名	制限事項の詳細
NEC製PC-9801-55	動作しません。
NEC製 PC-9800-100 PC-9821X-B02 (L)	PC-9800シリーズのWindows 3.1またはMS-DOS (PC DOS) 上で、640/1300MバイトのMOディスクを使用する場合  本製品の他に最低1台のSCSI機器が必要です。 他のSCSI機器のSCSI-IDを先頭にし、本製品のSCSI-IDと他のSCSI機器のSCSI-IDを離してください。 例) SCSI-ID=0 : HDD SCSI-ID=1 : 空けておく SCSI-ID=2 : 本製品
Adaptec製 AHA-2940AU AHA-2940 (J/N) AHA-1030P	

# ユーザー登録しよう

ここではユーザー登録について説明します。

## 本製品のユーザー登録について

### 1 「Verシール」を所定の位置に貼ります。

添付のVerシールを、ユーザー登録カード、サポートソフトウェアディスクの「Verシール」と書かれている欄、本書の巻末に貼ってください。

### 2 「ハードウェアシリアルNo. シール」を所定の位置に貼ります。

添付のハードウェアシリアルNo. シールを、ユーザー登録カード、ハードウェア保証書に貼ってください。

### 3 ユーザー登録を行います。

ユーザー登録にはオンライン登録と、ハガキ登録の2通りがあります。  
いずれかの方法で必ず登録を行ってください。

#### ●オンライン登録(インターネット <http://www.iodata.co.jp/>)

インターネットに接続できる環境をお持ちの場合はこちらでユーザー登録を行ってください。

I-O DATA ホームページに「オンライン・ユーザー登録」ボタンが用意されています。このボタンをクリックし、画面の表示にしたがって必要事項を記入して、ユーザー登録を行ってください。

オンライン・ユーザー登録後、お手元のユーザー登録カードには、ユーザー登録番号を記入して大切に保管してください。

#### ●ハガキ登録

ユーザー登録カードに、必要な事項をご記入のうえ、弊社までご返送ください。

- ・弊社では、サービス窓口でソフトウェアのバージョンアップサービスなどを行っておりますが、これらのサービスはユーザー登録を行った方のみが対象となります。お買い上げいただいた製品ごとに必ず登録を行ってください。
- ・ハガキ登録の場合、必要事項のご記入もれや必要なシールの貼り忘れがあった場合は、ユーザー登録できません。必ずご確認ください。

ユーザー登録しよう

## B'sCrew Backup for Windowsのユーザー登録について

添付の「ビー・エイチ・エー社ユーザー登録ハガキ」にてユーザー登録を行ってください。

### B'sCrew Backup for Windowsについて

詳しくは、【B'sCrew Backup for Windowsについて】(117ページ)をご覧ください。

# 取り扱いおよび使用上の注意

添付の『安全で快適にお使いいただくために』も併せてご覧ください。

また、サポートソフト内の「README.TXT」を必ずご覧ください。

## 1 使用する際の注意

### ● 640/1300MバイトのMOディスクについて

- ・ディスクドライバ「modiskx.sys」では、640/1300MバイトのMOディスクを使用できません。
- ・640/1300MバイトのMOディスクは、圧縮ドライブとして使用できません。

### ● パソコンの電源を切る場合

- ・パソコン本体の電源を切る場合は、本製品のアクセスランプを見て点灯・点滅していないことを確認してください。その後、電源を切ってください。

### ● MOディスクの使用について

- ・MOディスクへアクセス中（アクセスランプ点灯中）は絶対にイジェクトボタンを押さないでください。

記録されたファイルの読み書きができなくなったり、MOディスクが傷つき、使用不可能になる場合があります。

- ・必ずMOディスクを抜いてからパソコンを起動してください。挿入したまま起動すると一部のSCSIインターフェイスで不具合が発生する場合があります。

- ・記録されたデータやプログラムファイルは、誤動作や故障等によってファイルが破壊された場合、復旧することができません。

大切なファイルはあらかじめバックアップをする様にしてください。

- ・本製品をHDDモードで使用中は、MOディスクの交換をしないでください。データ破損の原因となります。

- ・ディスクコピーはMOディスクには対応していません。エラーメッセージが表示されたり、システムが応答しなくなりますので、絶対にMOディスクにに対して実行しないでください。

## 2 取り扱い上の注意

火災・感電・動作不良の原因になります。

### ● 本製品の取り扱いについて

- ・濡れた手などで本製品を取り扱わないでください。
- ・本製品を寒い所から暖かい場所へ移動したり、部屋の温度が急に上昇すると、本体内部が結露する場合があります。そのまま使用すると誤動作や故障の原因となる場合があります。時間をおいて、結露がなくなってから使用してください。
- ・本体内部に液体、金属などの異物が入らないようにしてください。
- ・本製品は書き込み時、非常に高温になります。そのため、長時間にわたってMOディスクのフォーマットや書き込み作業を行うと、ドライブの安全装置が働き、処理が中断されてしまう場合があります。このような場合は、一旦システムを終了してパソコン本体の電源を切り、ドライブが冷えるまでしばらくお待ちください。
- ・空気中に浮遊するゴミ・チリ、およびタバコの煙などにより、性能が低下することがあります。製品の性能を維持するために下記のクリーニングキットを別途お買い求めの上、3ヶ月に1度を目安にヘッドレンズのクリーニングを行ってください。

富士通製 「光磁気ディスククリーニングカートリッジ」

(商品番号 0240470)

### ● MOディスクの取り扱いについて

- ・MOディスクのシャッターを開けて、内部に直接ふれないでください。
- ・MOディスクのシャッター部に、ラベルを貼らないでください。
- ・MOディスクを本製品にセットする際、MOディスクのシャッター部分を持たないでください。人体に溜まった静電気が本製品内部に放電され、故障の原因となることがあります。

## 3 本製品の修理は弊社修理係にご依頼ください。

# 実行用ディスクを作ろう

本製品に添付されているフロッピーディスクは必ずバックアップを取り、バックアップディスクの方を実行用ディスクとしてご使用ください。

ここでは、実行用ディスクの作り方を説明します。(以下の例は、フロッピーディスクドライブがAドライブの場合です。)

## 1 フォーマット済みの空きフロッピーディスクを1枚用意します。

空きフロッピーディスクは「3.5インチ2DD : 720Kバイト」を用意します。

## 2 サポートソフトを書き込み禁止にします。

## 3 ディスクのコピーを行います。

Windows 98/95/NT 4.0, Windows 2000の場合は、「マイコンピュータ」の「3.5インチFD」を右クリックし「ディスクのコピー」を選択します。

Windows 98/95/NT 4.0, Windows 2000の例)



MS-DOS (PC DOS, Windows 3.1), Windows NT 3.51の場合は、MS-DOSのコマンド入力状態で以下のように入力して、**Enter**キーを押します。

MS-DOSの例)

(フロッピーディスクドライブ  
がAの場合)

```
C:\>diskcopy a: a:_
```

## 4 メッセージにしたがって、バックアップを取ります。

サポートソフトと空きフロッピーディスクをメッセージにしたがって入れ替えながら、バックアップを取ります。

サポートソフトを破損した場合の修理は有償です。

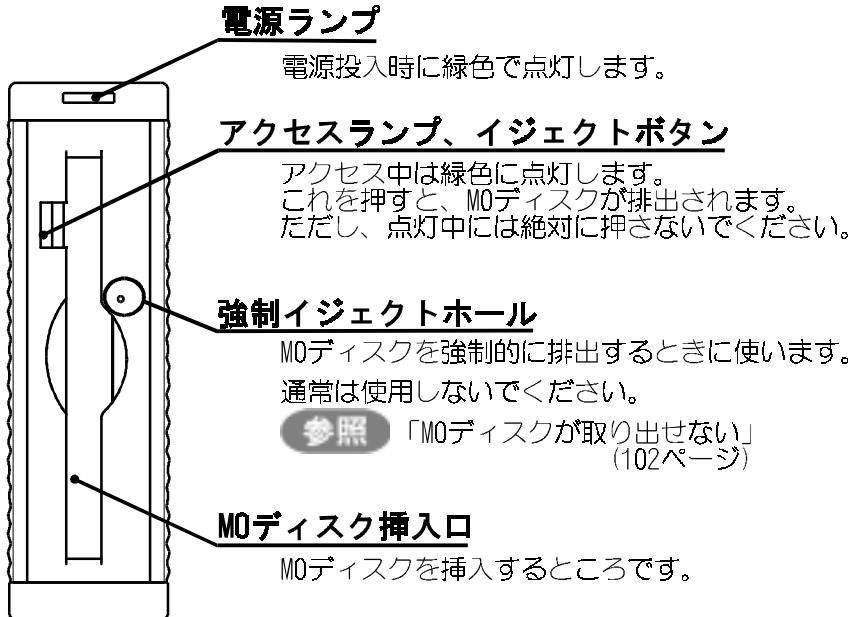
必ずバックアップを取り、サポートソフトは大切に保管してください。

# 各部の名称・機能

MOA-SM640W

各スイッチの設定は、それぞれの参照位置を確認の上、行ってください。

## ● 前面



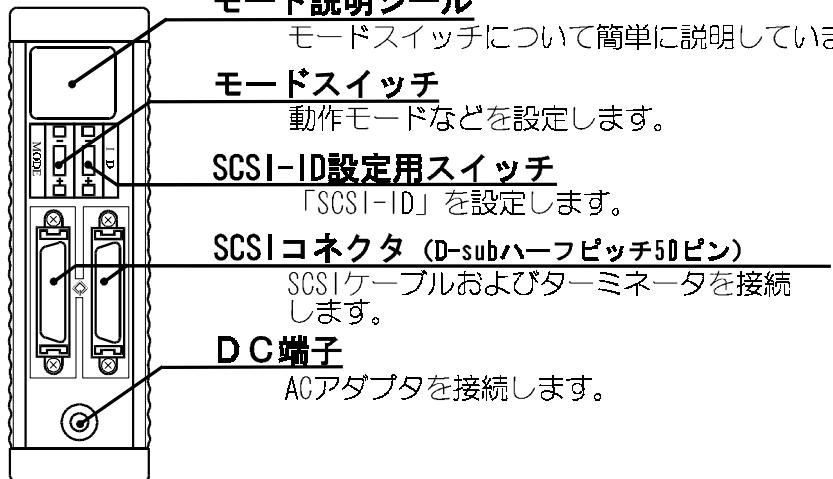
## ● 上面（横置き使用時は側面）



電源スイッチ

本製品の電源のON/OFFを行います。

## ● 背面

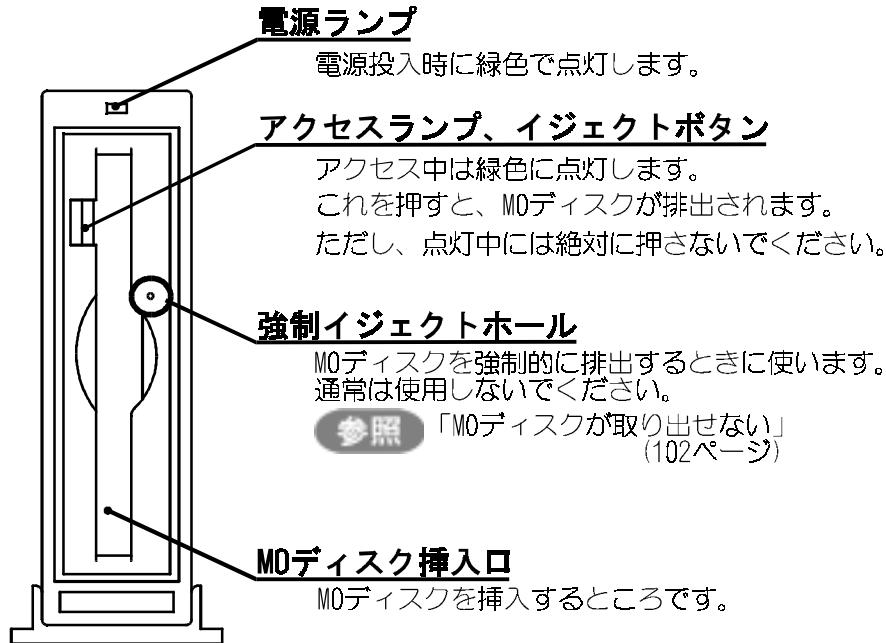


<b>モードスイッチ</b>	【■ モードスイッチの設定】(27ページ)
<b>SCSI-ID設定用スイッチ</b>	<p>【SCSI-IDを設定しよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-Windows 98/95/NT 4.0(34ページ)</li> <li>-Windows 2000(54ページ)</li> <li>-Windows NT 3.51(68ページ)</li> <li>-Windows 3.1, MS-DOS(78ページ)</li> <li>-Macintoshシリーズ(90ページ)</li> </ul>

## MOF-RM/SMシリーズ

各スイッチの設定は、それぞれの参照位置を確認の上、行ってください。

### ● 前面



#### 電源ランプ

電源投入時に緑色で点灯します。

#### アクセスランプ、イジェクトボタン

アクセス中は緑色に点灯します。

これを押すと、MOディスクが排出されます。

ただし、点灯中には絶対に押さないでください。

#### 強制イジェクトホール

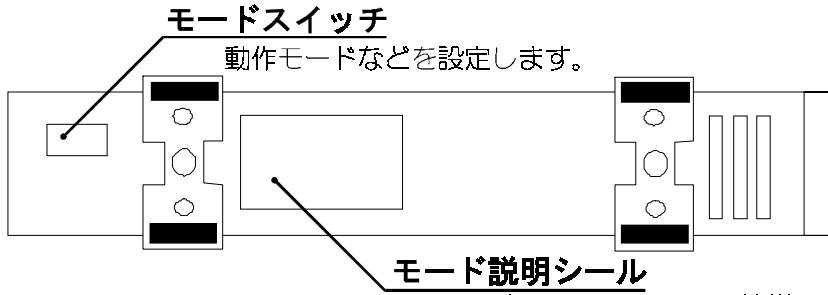
MOディスクを強制的に排出するときに使います。  
通常は使用しないでください。

参照 「MOディスクが取り出せない」  
(102ページ)

#### MOディスク挿入口

MOディスクを挿入するところです。

### ● 底面（横置き使用時は左面）



#### モードスイッチ

動作モードなどを設定します。

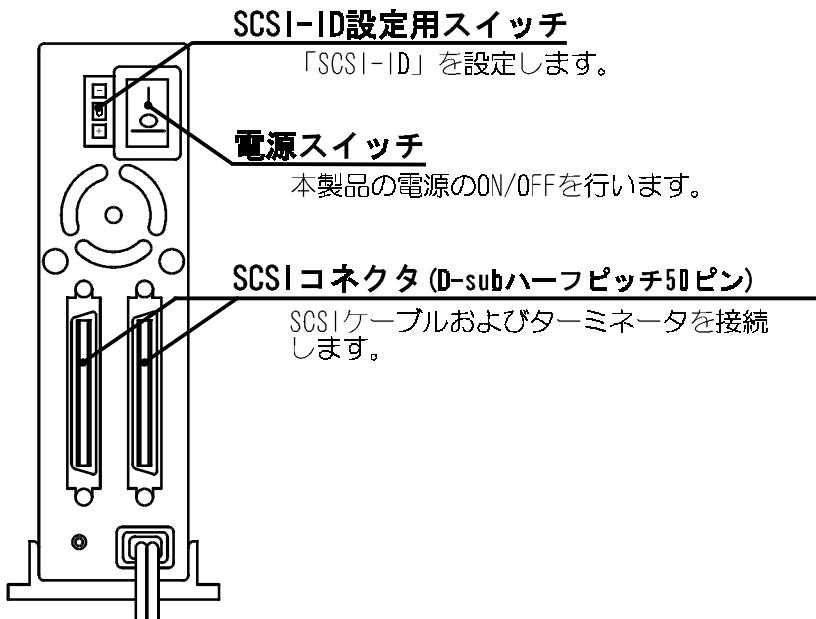
#### モード説明シール

モードスイッチについて簡単に説明しています。

モードスイッチ

【■ モードスイッチの設定】(27ページ)

● 背面



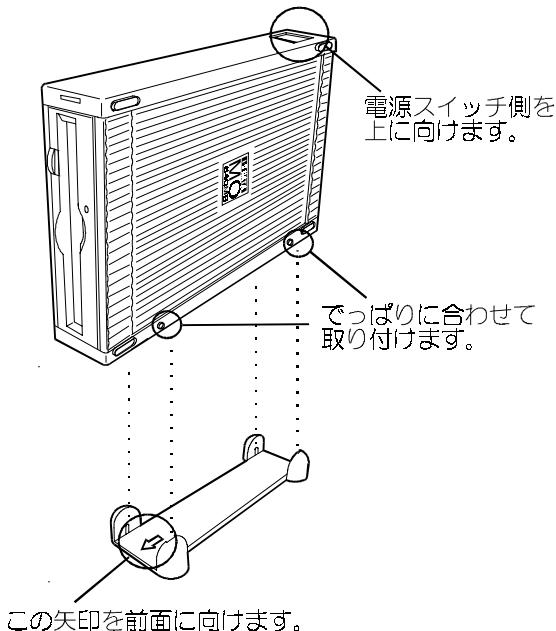
<b>SCSI-ID設定用スイッチ</b>	【SCSI-IDを設定しよう】 <ul style="list-style-type: none"><li>-Windows 98/95/NT 4.0 (34ページ)</li><li>-Windows 2000 (54ページ)</li><li>-Windows NT 3.51 (68ページ)</li><li>-Windows 3.1, MS-DOS (78ページ)</li><li>-Macintoshシリーズ (90ページ)</li></ul>
-----------------------	--

# 添付品を取り付けよう

ここでは、本製品に取り付け可能な添付品の取り付けについて説明します。

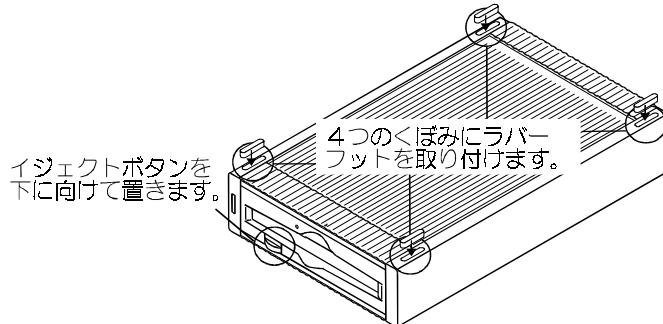
**MOA-SM640W**

## ● スタンドを取り付ける（縦置きで使う）



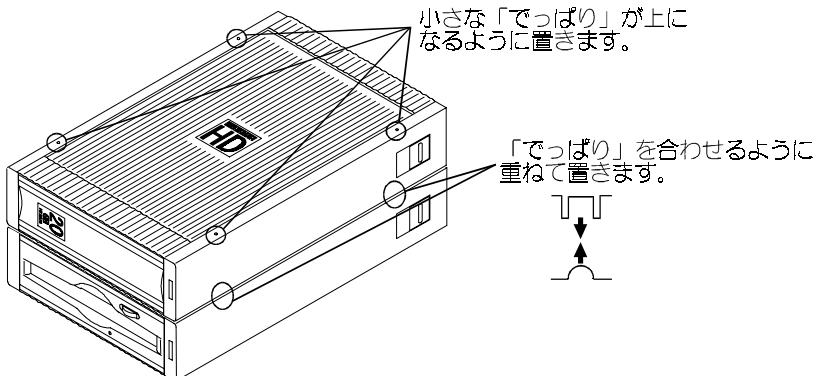
## ● ラバーフットを取り付ける（横置きで重ねないで使う）

本製品を他のMOAシリーズやHDA-iシリーズの上に重ねて使用する場合は、ラバーフットは取り付けないでください。



ラバーフットを取り付けた後は、イジェクトボタンが上になるように置いて使用してください。

## ● 横置きで重ねて使う

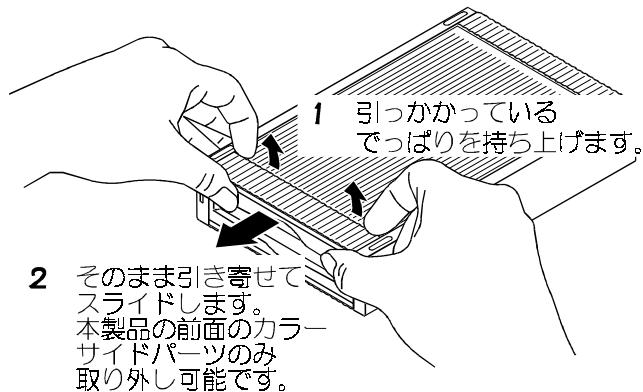


- ・本製品以外のMOAシリーズおよびHDA-iシリーズにも重ねることができます。
- ・ストーブなどの発熱体から離れた場所に設置してください。
- ・積み重ねられるドライブは2台までです。
- ・本製品を一番下に置く場合は、ラバーフットを取り付けてください。

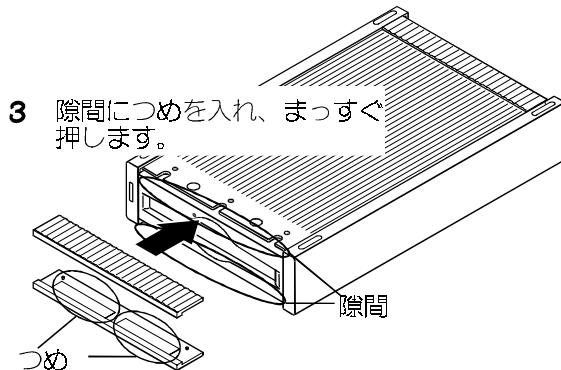
添付品を取り付けよう

## ● 他の色のサイドパーツに交換する

サイドパーツは、全部で2色あります。



- 2 そのまま引き寄せてスライドします。  
本製品の前面のカラー  
サイドパーツのみ  
取り外し可能です。

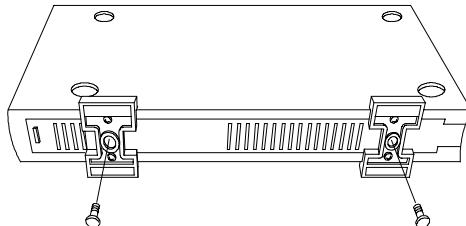


## MOF-RM/SMシリーズ

- 縦置きで使う場合 ⇒ 本製品をそのままお使いください
- 横置きで使う場合 ⇒ スタックアダプタを取り付ける

### 1 スタンドを取り外します。

スタンドの真ん中のネジだけを外して、スタンドを取り外します。

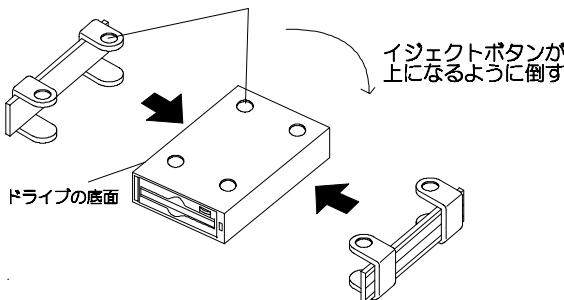


- 1)取り外したネジは、スタンドを外した状態で元に戻さないでください。
- 2)取り外したネジおよびスタンドは、紛失しないように大切に保管してください。

### 2 スタックアダプタを取り付けます。

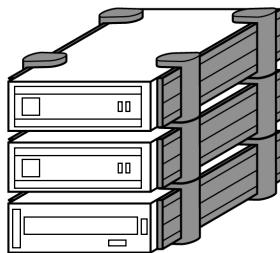
ドライブの「くぼみ」と、スタックアダプタの内側の「でっぱり」を合わせて取り付けます。その際に、スタックアダプタの外側にある「でっぱり」が置いたときに下向きになるように取り付けます。

横置きスタック用アダプタの内側の  
「でっぱり」とドライブの「くぼみ」を合わせる



横置きスタック用アダプタの外側の  
「でっぱり」が、置いた時に下向き  
になるように取り付ける

**③** このように重ねて使う事ができます。



- 1) ドライブを積み重ねてご使用になる場合は、ストーブなどの発熱体から離れた場所に設置してください。（動作環境：温度+5～+35）
- 2) 積み重ねるドライブ台数は3台までとしてください。
- 3) MOF-RM/SMシリーズは最下段に置いてください。
- 4) ドライブを積み重ねて使用する時に短いケーブルが必要な場合は、別途オプション品（弊社製「A50-A50-SS:10cm」等）をお買い求めください。

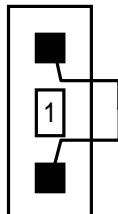
# 取り付ける前に

ここでは、本製品のスイッチの設定方法など、取り付け前に行うことについて説明します。

## ■ モードスイッチの設定

本製品のモードスイッチ（【各部の名称・機能】(18ページ)参照）で、動作モードとライトキャッシュの有効／無効を設定します。ライトキャッシュを有効(ON)にすると書き込みが速くなります。通常はONにしてご使用ください。

### [モードスイッチ変更の方法]



黒い部分をボールペンなどの先で  
押して変更します。

### 《モードスイッチによる動作》

機種	モードスイッチ	動作モード	ライトキャッシュ	備考
NEC PC98-NXシリーズ	1	MO	ON	出荷時設定
DOS/Vマシン	5	MO	OFF	
NEC PC-9800シリーズ	0	HDD	ON	
	4	HDD	OFF	
Apple	3	MO	ON	
Macintoshシリーズ	7	MO	OFF	

HDDモードについては【HDDモードについて】(113ページ)を参照してください。

# 取り付けよう

ここでは、本製品を取り付ける手順について説明します。

## SCSIの制限にお気を付けください

お使いのSCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧になり、接続可能台数や接続SCSI機器の接続ケーブル長の制限を超えていないことをご確認ください。

## SCSIケーブルやターミネータをSCSIコネクタに接続するときは

SCSI接続ケーブルやターミネータをSCSIコネクタに接続するときは、まっすぐに接続してください。無理な角度で接続するとピンが折れる場合があります。接続の際は「カチッ」と音がするまで差し込み、軽く引っ張っても抜けないことをご確認ください。

## 1 SCSIインターフェイスを使えるようにします。

SCSIインターフェイスが使えるようになっていることを確認します。

SCSIインターフェイスが使えるようになっていない場合は、SCSIインターフェイスの取扱説明書をご参照になり、先にSCSIインターフェイスの設定を行ってください。

## 2 SCSI機器に接続する場合は、ターミネータを取り外します。

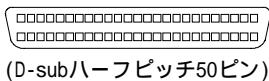
本製品を接続済みのSCSI機器に接続する場合は、そのSCSI機器のSCSIコネクタに接続されているターミネータを取り外します。

## 3 SCSIコネクタにSCSI接続ケーブルを接続します。

SCSIインターフェイスもしくはSCSI機器のコネクタ形状により、使用できるSCSIケーブルが異なります。次ページをご覧になり、SCSIコネクタにあったケーブルをお使いください。

本ページのコネクタ図はほぼ実物大です。

実際に接続するSCSIコネクタと見比べてお使いください。



(D-subハーフピッチ50ピン)

本製品に添付のSCSI接続ケーブルをお使いください。



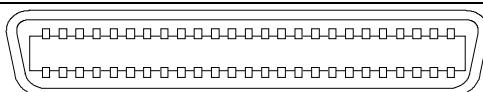
(D-subハーフピッチ68ピン)

本製品に添付のSCSI接続ケーブルとAD-SC/AW  
(D-subハーフピッチ50ピン D-subハーフピッ  
チ68ピン変換コネクタ)をお使いください。



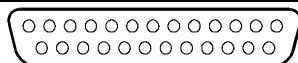
(アンフェノールハーフピッチ50ピン)

A50-H50など(D-subハーフピッチ50ピン  
アンフェノールハーフピッチ50ピン)をお使い  
ください。



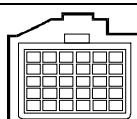
(アンフェノールフルピッチ50ピン)

F50-A50など(アンフェノールフル  
ピッチ50ピン D-subハーフピッチ  
50ピン)をお使いください。



(D-sub25ピン)

お使いのSCSIインターフェイスに添付のSCSI接  
続ケーブル、またはお使いのSCSIインターフェ  
イスの別売オプション品をお使いください。



(HDI30ピン)

AP30-A50など(HDI30ピン D-subハーフピッチ  
50ピン)をお使いください。



(その他)

お使いのSCSIインターフェイスに付属している  
SCSI接続ケーブル、もしくはお使いのSCSIイン  
ターフェイスの別売オプション品をお使いくだ  
さい。

#### 案内されている弊社製SCSI接続ケーブル以外を使う場合

お使いになるSCSI接続ケーブルは、片方はSCSIインターフェイスや本製品の前  
にあるSCSI機器のコネクタの形状に、もう片方はD-subハーフピッチ50ピンの  
SCSIコネクタに接続できるものを選んでください。

取り付けよう

#### 4 本製品のSCSIコネクタにSCSI接続ケーブルを接続します。

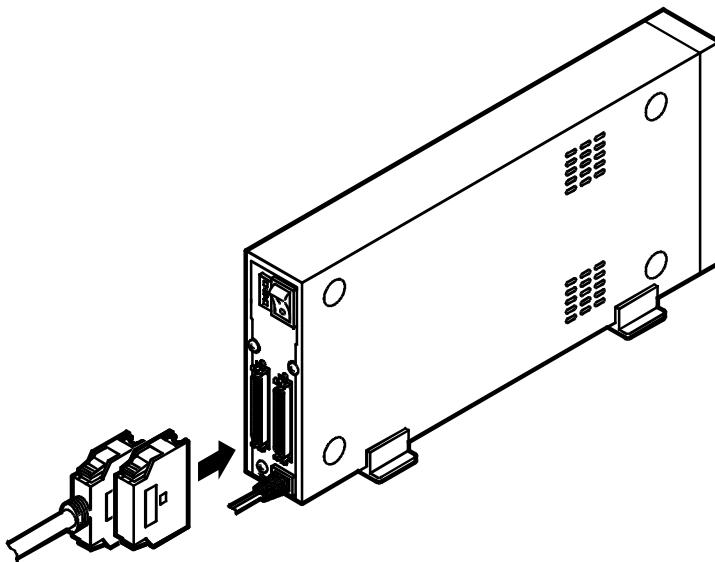
手順3で接続したSCSI接続ケーブルのもう一方を、本製品のSCSIコネクタに、まっすぐに差し込みます。（左右どちらのSCSIコネクタでも可）

#### 5 本製品のもう片方のSCSIコネクタにターミネータを接続します。

本製品にあるもう一方のコネクタに、ターミネータをまっすぐに差し込みます。

##### ターミネータについて

本製品に接続するターミネータには「アクティブ・ターミネータ」をお使いください。



#### 6 MOA-SM640Wでは、添付のACアダプタを本製品に取り付けます。

#### 7 ACアダプタ/ACプラグを電源コンセントに接続します。

# ご使用のOSは？

本製品はパソコンに取り付けられていますか？

取り付けられていない場合は、もう一度22ページからお読みになり、取り付けを行ってください。

ここからはご使用のOSまたは機種により、お読みいただく個所が異なります。

ご使用のOSまたは機種ごとに必要な個所をお読みください。

- **Windows 98/95/NT 4.0**

【Windows 98/95/NT 4.0でご使用の場合】 ..... 33

- **Windows 2000**

【Windows 2000でご使用の場合】 ..... 53

- **Windows NT 3.51**

【Windows NT 3.51でご使用の場合】 ..... 67

- **Windows 3.1, MS-DOS (PC DOS)**

【Windows 3.1、MS-DOSでご使用の場合】 ..... 77

- **Macintoshシリーズ**

【Macintoshシリーズでご使用の場合】 ..... 89

# **MEMO**

# Windows 98/95/NT 4.0でご使用の場合

ここではWindows 98/95/NT 4.0で使用する際の設定について説明します。

## Windows 98/95にアップグレードする場合

Windows 3.1およびMS-DOS(PC DOS)で使用されていた環境をWindows 98/95へアップグレードする場合は、以下の作業を行ってください。

CONFIG.SYSから、「MODISK.SYS（またはMODISKX.SYS）」、「ATASPI.EXE」を含む行を削除してください。

## Windows 98にアップグレードする場合

Windows 95からWindows 98にアップグレードする場合は、「MOF/MOAシリーズ サポートソフト」を削除した後、アップグレードを行ってください。

## Windows NT 4.0の場合

必ずAdministrator権限のあるユーザーでログインした状態で、インストールを行ってください。

## SCSI-IDを設定しよう

本製品のSCSI-IDを設定する方法を説明します。(34ページ)

## インストールしよう

本製品を使えるようにします。(35ページ)

## 遅延書き込みについて

「遅延書き込み」について説明します。(40ページ)

## MOディスクを使ってみよう

MOディスクに関する説明をします。(42ページ)

## インストールされた情報を削除するには

本製品を再インストールするときなどに必要な作業を説明します。(50ページ)

# SCSI-IDを設定しよう

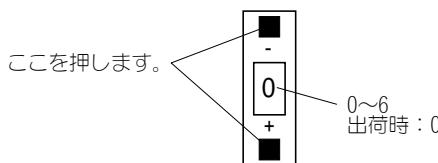
SCSI-ID設定用スイッチによる設定は、必ずパソコンおよび周辺機器の電源がOFFの状態で行ってください。

## ● SCSI-IDの設定

本製品のSCSI-ID設定用スイッチで、0~6の間で設定します

(7は通常SCSIインターフェイスが使用)。

設定は、図の黒い部分をシャープペンシルなどの先の固いもので押して、行ってください。



以下のようにSCSI-IDを設定してください。

### 本製品のみを接続している場合

SCSI-ID=0：本製品（初期値。変更の必要はありません。）

### 複数のSCSI機器を接続している場合

- PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシンの場合

他のSCSI機器と重ならないように、SCSI-IDを設定してください。

- PC-9800シリーズでSCSIインターフェイスボードをお使いの場合

0から連続して設定する必要があります。

例) SCSI-ID=0 : HDD

SCSI-ID=1 : 本製品

SCSI-ID=2 : CD-ROM

- PC-9800シリーズでSCSI PCカードをお使いの場合

他のSCSI機器と重ならないように、SCSI-IDを設定してください。

# インストールしよう

ここでは本製品をOS上で使うために、「MOF/MOAシリーズサポートソフト」をインストールします。

## すでに弊社製ドライブをお使いの方は

すでに弊社製MOドライブ(MOP-230を除く)をお使いの場合は、ドライバを削除してください。

ドライバを削除しても、本製品のドライバのインストールが終われば、問題なくお使いいただけます。

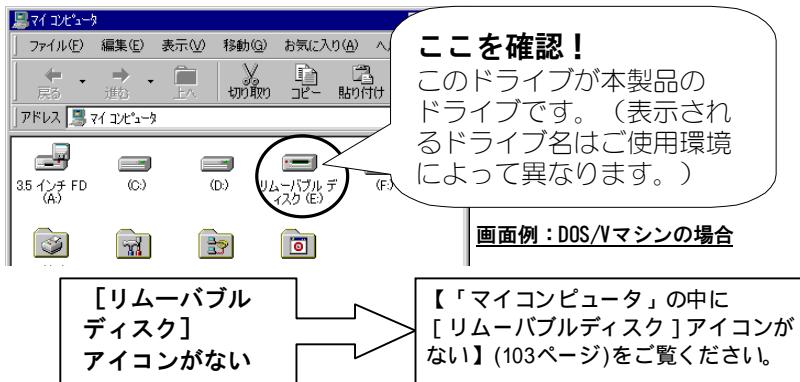
MOドライブの情報の削除方法については、各取扱説明書をご覧ください。

## 1 周辺機器・パソコンの電源を入れ、OSを起動します。

周辺機器の電源を入れてから、パソコンの電源を入れて、OSを起動します。

## 2 [リムーバブルディスク] アイコンを確認します。

OSが起動したら、『マイコンピュータ』アイコンをダブルクリックし、[リムーバブルディスク] アイコンを確認します。



## 3 「MOF/MOAシリーズサポートソフト」を挿入します。

インストールしよう

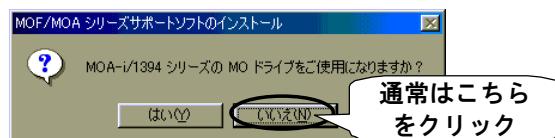
#### 4 SETUP.EXEを実行します。

『マイコンピュータ』→『A: (例:フロッピーディスクドライブがAの場合)』→『Setup.exe』の順にダブルクリックします。

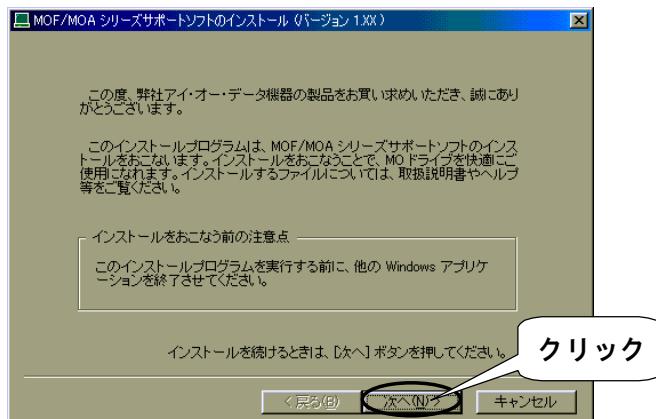


#### 5 Windows 98 SEをお使いの場合、下の画面が表示されます。

すでに弊社製「MOA-i/1394シリーズ」をお使いの場合は、〔はい〕ボタンをクリックします。

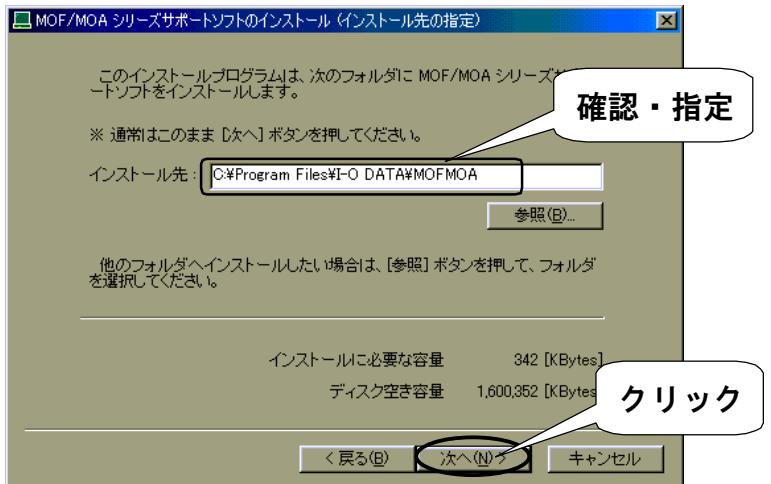


#### 6 [次へ] ボタンをクリックします。



## 7 インストールするフォルダ名を指定します。

変更しない場合はそのまま[次へ]ボタンをクリックします。



「インストールに必要な容量」の表示は、お使いのOSによって異なることがあります。

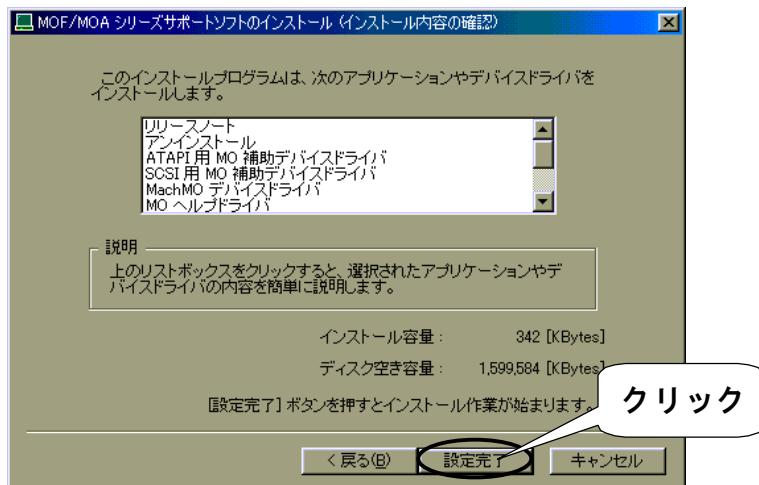
## 8 手順 7 で指定したフォルダがない場合は作成します。

[はい] ボタンをクリックします。



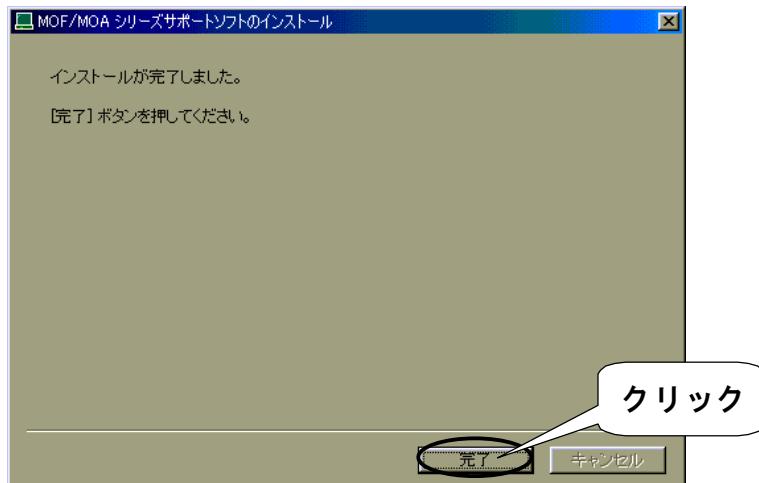
インストールしよう

9 [設定完了] ボタンをクリックします。



上のリスト内のインストールされる項目を選択すると、下の説明ボックス内に選択した項目の説明が表示されます。

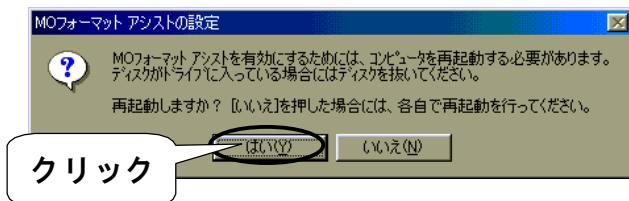
10 [完了] ボタンをクリックします。



**11 「MOF/MOAシリーズサポートソフト」を抜きます。**

**12 [はい] ボタンをクリックします。**

⇒パソコンを再起動します。



以上でインストールは終了です。

# 遅延書き込みについて

ここでは、「遅延書き込み」について説明します。

## ● 遅延書き込みを設定すると

遅延書き込みの設定を行うとWindowsのパフォーマンスが向上します。

この設定を行うと、画面上で書き込みが終了していても実際の書き込み作業が行われている場合があります。

MOディスクを取り出したり、アクセスしたり、パソコンの電源を切る際は、  
アクセスランプが点灯していないか充分確認してから行ってください。

## ● 遅延書き込みの設定

### Windows 98の場合(MOF-RM1300)

#### 1 [システムのプロパティ] を起動します。

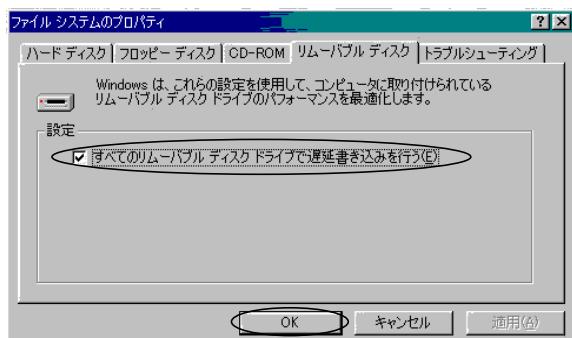
[マイコンピュータ] を右クリックし、表示された [プロパティ] をクリックします。

#### 2 [パフォーマンス] タブをクリックします。

#### 3 [ファイルシステム] ボタンをクリックします。

#### 4 [リムーバブルディスク] タブをクリックします。

#### 5 [すべてのリムーバブル………] をチェックします。



### **Windows 98の場合(MOF-RM1300以外)**

本製品にて遅延書き込みに対応しています。  
したがって、何も設定する必要はありません。

### **Windows 95の場合**

「Mach MO」、もしくは本製品によって遅延書き込みの設定が行われています。  
したがって、何も設定する必要はありません。

### **Windows NT 4.0の場合**

Windows NT 4.0ではOS標準で遅延書き込みを行うように設定されています。  
したがって、何も設定する必要はありません。

# MOディスクを使ってみよう

## MOディスクの使い方

MOディスクの使い方を説明します。  
(43ページ)

## フォーマットしよう

MOディスクをフォーマットする方法を説明  
します。 (44ページ)

## MOディスク使用上の注意 (Windows NT 4.0のみ)

本製品を使用する上で、注意しなければ  
いけないことを説明します。 (47ページ)

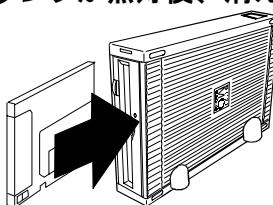
## MOディスクから起動するには (PC-9800シリーズの Windows 98/95のみ)

MOディスクから起動する方法について説明  
します。 (49ページ)

# MOディスクの使い方

## MOディスクを挿入する

- 1 MOディスクの表側をアクセスランプに向けてMOディスク挿入口へまっすぐにカチッと音がするまで入れます。
- 2 アクセスランプが点灯後、消えることを確認します。



(図はMOA-SM640W)

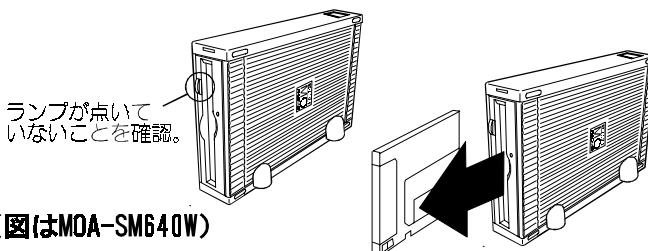
## MOディスクを取り出す

パソコンの電源を切る前に  
必ずMOディスクを取り出してから、パソコンの電源を切ってください。

- 1 本製品のアクセスランプが消えていることを確認します。
- 2 Windows上で【取り出し】をクリックします。

本製品のアイコンを右クリックし、表示された【取り出し】をクリックします。

⇒自動的にMOディスクが出てきます。



(図はMOA-SM640W)

MOディスクが  
取り出せない

【MOディスクが取り出せない】  
(102ページ)をご覧ください。

# フォーマットしよう

購入されたMOディスクを使用するためには、一度フォーマットする必要があります。下記の手順でフォーマット作業を行ってください。

MOディスクをフォーマットするには、必ず「MOF/MOAシリーズサポートソフト」をインストール後、下記の手順でフォーマットを行ってください。  
(インストール前の『エクスプローラ』や『マイコンピュータ』の[フォーマット]は使用しないでください。)

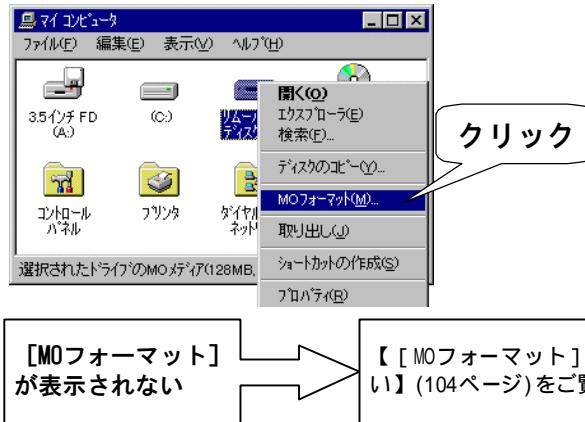
## 《フォーマット方法1》

### 1 MOディスクを本製品に挿入します。

フォーマットしたいMOディスクを確認し、本製品に挿入します。  
アクセスランプが一度点灯して、消えることを確認してください。

### 2 右クリックメニューの「MOフォーマット」をクリックします。

『マイコンピュータ』を起動し、[リムーバブルディスク]アイコンを右クリックし、表示された「MOフォーマット」をクリックします。  
※表示されるメニュー内に「MOフォーマット」と「フォーマット」が同時に表示される場合がありますが、動作上の問題はありません。  
フォーマットの際には、「MOフォーマット」を選択してください。



M0ディスクを使ってみよう

フォーマットしよう

### 3 フォーマットの種類を選び、[スタート]ボタンを押します。

M0ディスクに保存されているファイルは、すべて消去されます。

**M0ディスクから起動する場合**

システムファイルをコピーしたM0ディスクを挿入した状態で行ってください。

### 4 フォーマットが終了したら、[閉じる]ボタンを押します。

フォーマットが終了すると、M0ディスクが自動的に排出され、フォーマット結果が表示されます。[閉じる]ボタンを押してください。

### 5 もう一度[閉じる]ボタンを押します。

手順③の画面に戻るので、もう一度[閉じる]ボタンを押します。

以上でフォーマットは完了です。

フォーマット後のM0ディスクは一度「スキャンディスク」をかけることをおすすめします。

M0ディスクを使ってみよう

フォーマットしよう

## 《フォーマット方法2》

M0ディスクのフォーマットは「エクスプローラ」でも行うことができます。

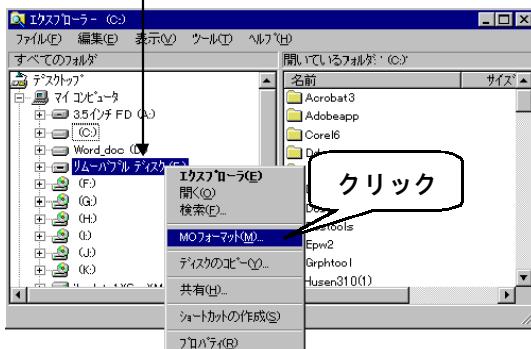
### 1 「エクスプローラ」を起動します。

[スタート] → [プログラム] → [エクスプローラ] の順にクリックします。

### 2 右クリックメニューの【M0フォーマット】をクリックします。

以後は、《フォーマット方法1》の手順③以降と同様です。

ここを右クリックすると、『マイコンピュータ』と同じメニューが表示されます。



【M0フォーマット】  
が表示されない

【[M0フォーマット] が表示され  
ない】(104ページ)をご覧ください。

『エクスプローラ』で、M0ディスクの内容を表示中はフォーマットできません。他のドライブの内容を表示させて、『リムーバブルディスク』を右クリックしてください。

# MOディスク使用上の注意(Windows NT 4.0のみ)

Windows NT 4.0でお使いの場合は、以下の点に注意してください。

## ■メディアの交換に関して

Windows NT 4.0でMOディスクを交換した場合、システムが認識できず、交換後のMOディスクの情報が正しく表示されない場合があります。この場合以下の手順でシステムにMOディスクを再認識させる必要があります。

以下の場合は、《MOディスクの再認識手順》を行ってもMOディスクの交換が正しく認識されないことがあります。

その場合は、パソコンを再起動してください。

- ・ DOS/VマシンでWindows NT 4.0 ServicePack 4以降を使用している環境で、640Mバイト未満(128/230/540Mバイト)のMOディスクと640Mバイト,1300MバイトのMOディスクを交換した場合

## 《MOディスクの再認識手順》

### 1 右クリックメニュー内の【プロパティ】をクリックします。

『マイコンピュータ』を開き、[リムーバブルディスク]アイコンを右クリックし、表示されるメニューの中から【プロパティ】をクリックしてください。

### 2 「容量」などが正しく表示されているか確認します。

表示が正しい場合……………[OK]ボタンをクリックします。

これで再認識手順は終了です。

表示が正しくない場合……………次へ進んでください。



MOディスクを使ってみよう

MOディスク使用上の注意(Windows NT 4.0のみ)

### 3 「ディスクアドミニストレータ」で確認します。

[スタートメニュー] → [管理ツール] → [ディスクアドミニストレータ] を起動し正しく表示されているかを確認します。その後、ディスクアドミニストレータを終了します。



### 4 MOディスクの交換が認識されているかどうかを確認します。

まだMOディスクの交換が正しく認識されていない場合は、Windows NT 4.0を再起動してください。

# MOディスクから起動するには (PC-9800シリーズのWindows 98/95のみ)

PC-9800シリーズのWindows 98/95では、下記の手順でフォーマットすることにより、ハードディスクやフロッピーディスクと同様にMOディスクから起動できます。

- 1) 640/1300MバイトのMOディスクを起動ディスクとして使うことはできません。
- 2) 以下の環境でご使用の場合は、MOディスクから起動できません。
  - ・PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシンでご使用の場合
  - ・BIOSのないiSCSIインターフェイスに接続してご使用の場合
  - ・SCSI PCカードに接続してご使用の場合

## 1 MOディスクをフォーマットします。

【フォーマットしよう】(44ページ)を参照して、「クイックフォーマット」または「通常のフォーマット」でMOディスクをフォーマットします。

## 2 システムファイルをコピーします。

再度【フォーマットしよう】(44ページ)を参照して、【起動専用】を選択して【スタート】ボタンをクリックします。

## 3 MOディスクが挿入された状態で、Windows 98/95を再起動します。

作業を行ったMOディスクを挿入したまま、Windows 98/95を再起動します。

## 4 自動的にMOディスクから起動します。

(起動はWindows 98/95のWindowsシステムではなく、MS-DOSモードの状態で起動します。)

起動後はドライブ名が変わりますので、ご注意ください。

例) ハードディスクドライブがA、Bドライブ、フロッピーディスクドライブがCドライブだった場合、本製品から起動後は、  
 Aドライブ : 本製品  
 Bドライブ : フロッピーディスクドライブ  
 C,Dドライブ : ハードディスクドライブ

# インストールされた情報を削除するには

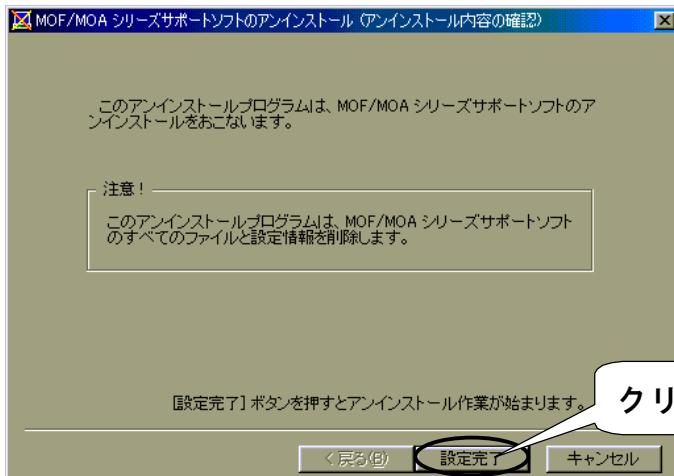
本製品を使わなくなったり、「MOF/MOAシリーズサポートソフト」を再インストールする場合は、インストールされた情報を削除（アンインストール）する必要があります。

## 1 「アプリケーションの追加と削除」を起動します。

[スタート] → [設定] → [コントロールパネル] → [アプリケーションの追加と削除] を起動します。

## 2 「MOF/MOAシリーズサポートソフト」をダブルクリックします。

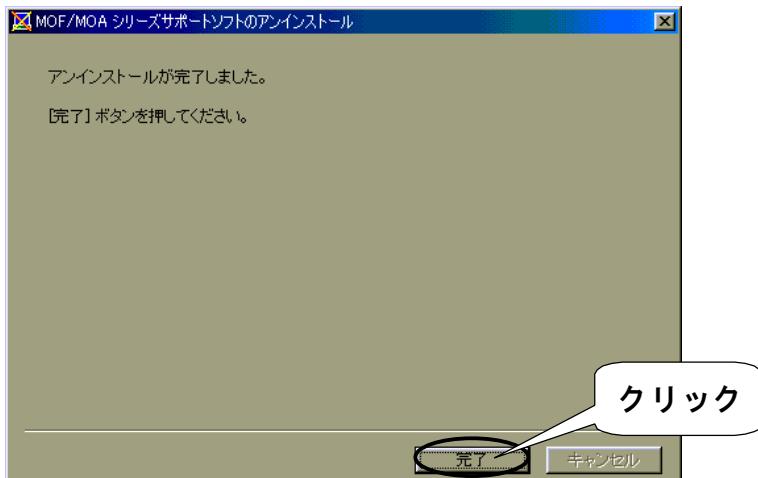
## 3 「設定完了」ボタンをクリックします。



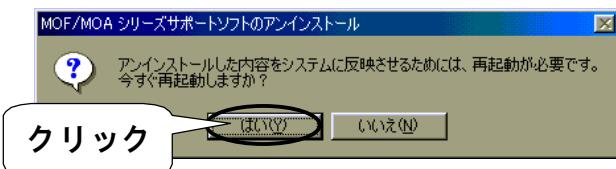
クリック

インストールされた情報を削除するには

#### 4 [完了] ボタンをクリックします。



#### 5 [はい] ボタンをクリックします。



# **MEMO**

# Windows 2000でご使用の場合

ここではWindows 2000で使用する際の設定について説明します。

## Windows 2000にアップグレードする場合

Windows 98/95/NT 4.0からWindows 2000へアップグレードしてお使いになる場合は、アップグレードをする前に「MOF/MOAシリーズサポートソフト」をアンインストールしてください。アンインストールについては、【インストールされた情報を削除するには】(50ページ)をご覧ください。

## MOディスクを使う前に

Windows 2000でMOドライブをご利用になる場合は、「Windows 2000用MOユーティリティソフト」をインストールしてからご使用ください。

また、MOディスクのフォーマットは、「MOディスクフォーマッタ」をご使用ください。

MOドライブのアイコンを右クリックしての「フォーマット」は行わないでください。

## SCSI-IDを設定しよう

本製品のSCSI-IDを設定する方法を説明します。(54ページ)

## インストールしよう

本製品を使えるようにします。(55ページ)

## MOディスクを使ってみよう

MOディスクに関する説明をします。(59ページ)

## インストールされた情報を削除するには

本製品を再インストールするときなどに必要な作業を説明します。(65ページ)

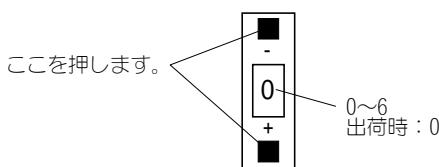
# SCSI-IDを設定しよう

SCSI-ID設定用スイッチによる設定は、必ずパソコンおよび周辺機器の電源がOFFの状態で行ってください。

## ● SCSI-IDの設定

本製品のSCSI-ID設定用スイッチで、0~6の間で設定します  
(7は通常SCSIインターフェイスが使用)。

設定は、図の黒い部分をシャープペンシルなどの先の固いもので押して、  
行ってください。



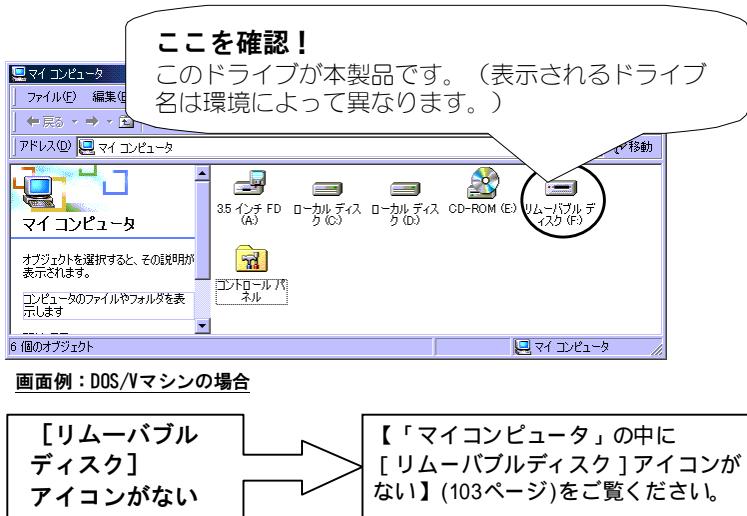
# インストールしよう

ここでは本製品をOS上で使うために、ユーティリティをインストールします。

**1 Administrator権限を持つユーザーでログインします。**

**2 [リムーバブルディスク] アイコンを確認します。**

OSが起動したら、『マイコンピュータ』アイコンをダブルクリックし、  
[リムーバブルディスク] アイコンを確認します。



**3 「MOF/MOAシリーズユーティリティソフト」を挿入します。**

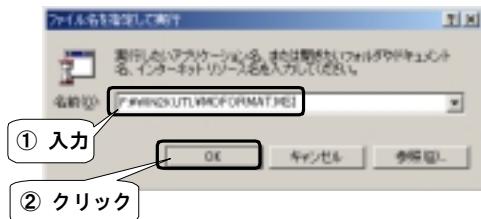
**4 【ファイル名を指定して実行】を起動します。**

[スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックします。

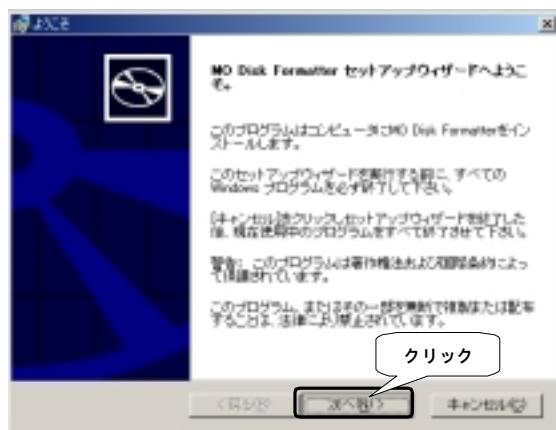
インストールしよう

## 5 「MOFORMAT.MSI」を起動します。

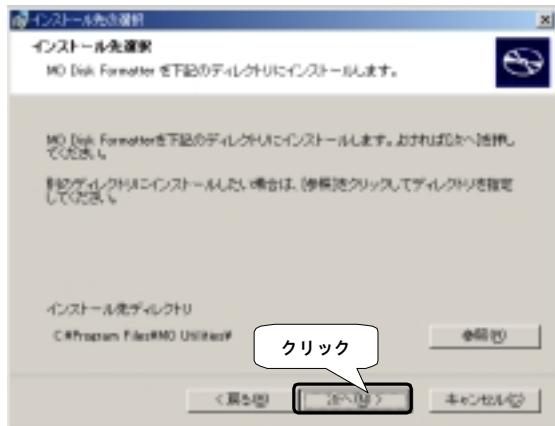
「F:\WIN2KUTL\MOFORMAT.MSI」（CD-ROMドライブがFの場合）と入力し、[OK]ボタンをクリックします。



## 6 [次へ] ボタンをクリックします。



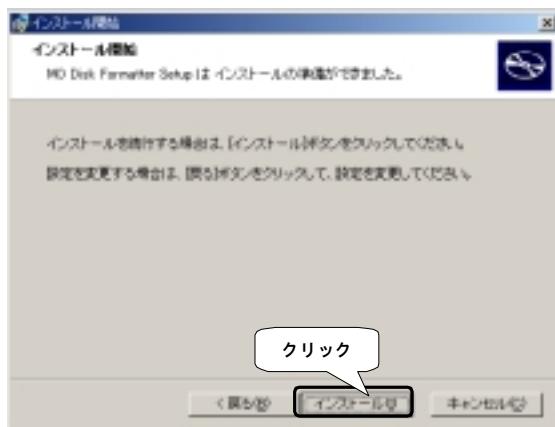
7 [次へ] ボタンをクリックします。



ここではインストール先のフォルダの設定を変更することができます。  
設定を変更したい場合は、[参照] ボタンをクリックして変更してください。  
通常は変更する必要はありません。

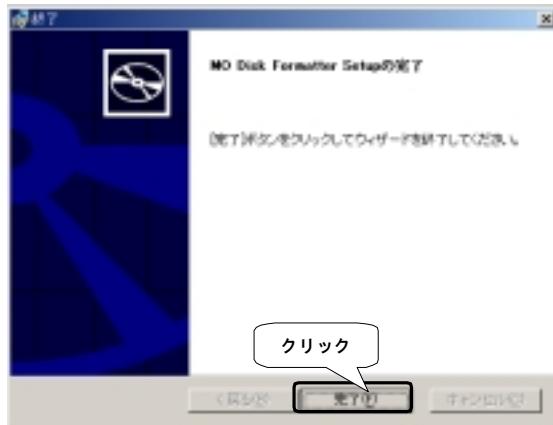
8 [インストール] ボタンをクリックします。

⇒ README.TXTが開かれますので、お読みください。



インストールしよう

9 [完了] ボタンをクリックします。



10 再起動を行います。

「MOF/MOAシリーズユーティリティソフト」を取り出し、[はい] ボタンをクリックします。



以上でインストールは終了です。

# MOディスクを使ってみよう

## MOディスクの使い方

MOディスクの使い方を説明します。(60ページ)



## ユーティリティを使おう

MOディスクをフォーマットする方法などを説明します。(61ページ)

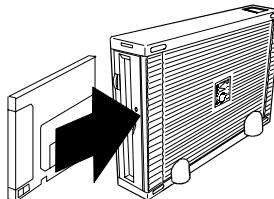
MOディスクを使ってみよう

## MOディスクの使い方

Windows 2000を起動／終了する前に  
必ずMOディスクを取り出してください。

### MOディスクを挿入する

- 1 MOディスクの表側をアクセスランプに向けてMOディスク挿入口へまっすぐにカチッと音がするまで入れます。
- 2 アクセスランプが点灯後、消えることを確認します。



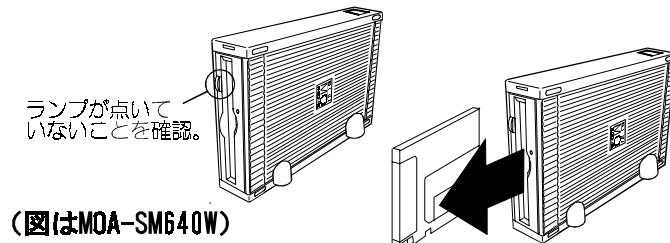
(図はMOA-SM640W)

### MOディスクを取り出す

- 1 本製品のアクセスランプが消えていることを確認します。
- 2 Windows上で【取り出し】をクリックします。

本製品のアイコンを右クリックし、表示された【取り出し】をクリックします。

⇒自動的にMOディスクが出てきます。



(図はMOA-SM640W)

MOディスクが取り出せない

【MOディスクが取り出せない】  
(102ページ)をご覧ください。

# ユーティリティを使おう

ここでは、インストールしたユーティリティを使う方法について説明しています。

## インストールされたユーティリティ

インストールされたユーティリティは2つです。

### M0ディスクフォーマッタ ..... 6 2

M0ディスクをフォーマットするためのユーティリティです。

### フォーマット/イジェクト権限変更ツール ..... 6 4

Windows 2000では、Administrator権限のユーザーのみがM0ディスクをフォーマットできます。しかし、このツールを使えば、ユーザー権限のユーザーでもM0ディスクをフォーマットできるようにすることが可能です。

M0ディスクを使ってみよう  
ユーティリティを使おう

## 「M0ディスクフォーマッタ」について

「M0ディスクフォーマッタ」を使えば、M0ディスクをフォーマットできます。

1. 最初の設定では、Administrator権限を持つユーザーのみフォーマットをすることができます。すべてのユーザーで、M0ディスクをフォーマットしたい場合は、64ページをご覧ください。
2. 「M0ディスクフォーマッタ」は、Windows 98/95/NT 4.0用の「M0フォーマット」とは異なり、アイコンを右クリックしても表示されません。下の手順にしたがって起動してください。

## フォーマット方法

### 1 「M0ディスクフォーマッタ」を起動します。

[スタート] → [プログラム] → [M0 Utilities] → [M0ディスクフォーマッタ] の順にクリックします。

### 2 本製品にM0ディスクを挿入します。

### 3 本製品を選びます。

ここで表示されるドライブ名は以下のようになっています。

MOA-SM640W : FUJITSU MCF3064SS  
MOF-RM1300 : FUJITSU MCE3130SS  
MOF-RM640 : FUJITSU MCE3064SS  
MOF-SM640 : FUJITSU MCF3064SS  
MOF-RM230 : FUJITSU MCE3023SS  
MOF-SM230 : FUJITSU MCF3023SS

### 4 フォーマット形式を設定します。

フォーマット形式および物理フォーマットするかどうかを設定します。  
通常は、「フロッピイ形式(FAT16)」でフォーマットしてください。

#### 選択できるフォーマット形式

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| ・フロッピイ形式(FAT16)   | ・フロッピイ形式(FAT32)   |
| ・ハードディスク形式(FAT16) | ・ハードディスク形式(FAT32) |

「ハードディスク形式」は、古い形式です。特に必要でない方は使わないでください。

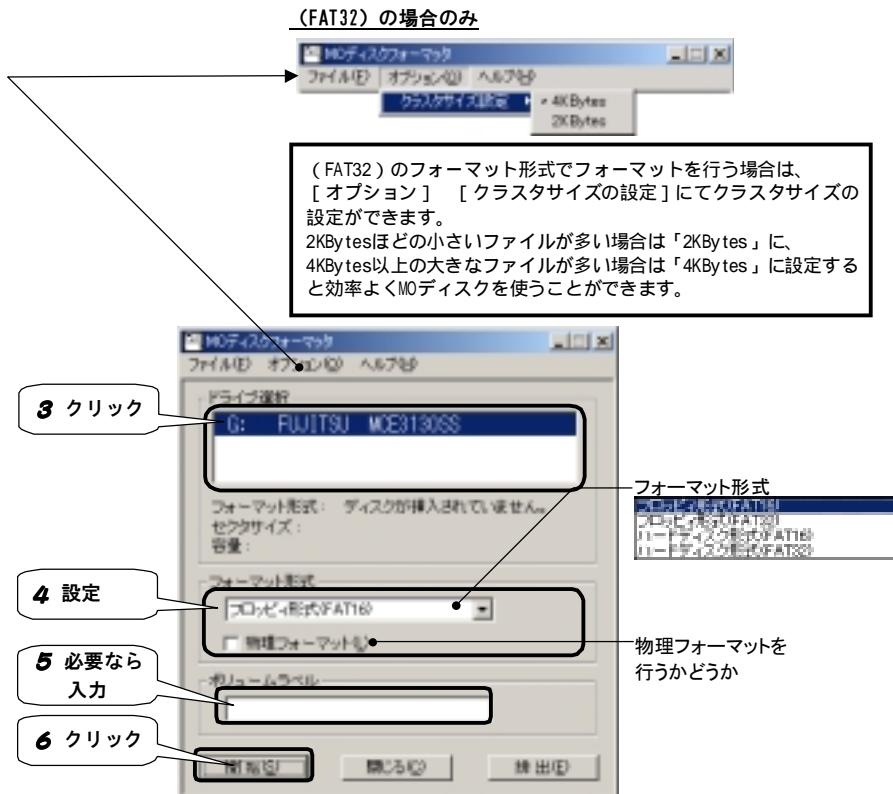
(FAT32) は、MS-DOSなどのFAT32に対応していないOSでは使えません。

#### 物理フォーマットは通常行う必要はありません

時間がかかるため、通常は物理フォーマットにチェックしないでください。

**5 必要ならば、ボリュームラベルを入力します。**

**6 [開始] ボタンをクリックします。**



M0ディスクを使ってみよう  
ユーティリティを使おう

## 「フォーマット／イジェクト権限変更ツール」について

「フォーマット／イジェクト権限変更ツール」を使えば、Administrator権限を持っていないユーザーでもM0ディスクをフォーマットできるようにすることができます。

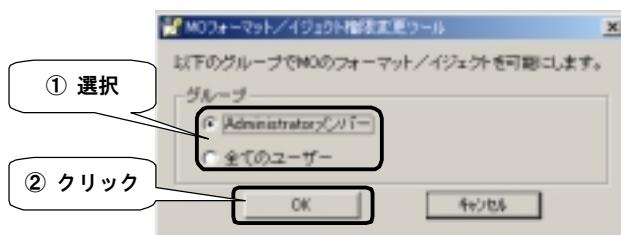
「フォーマット／イジェクト権限変更ツール」は、Administrator権限を持つユーザーのみ使用することができます。ユーザー権限のユーザーではこのツールは使用できません。

### 権限変更方法

**1 「フォーマット／イジェクト権限変更ツール」を起動します。**  
[スタート] → [プログラム] → [M0 Utilities] → [フォーマット／イジェクト権限変更ツール] の順にクリックします。

**2 権限を変更します。**

「グループ」でフォーマット／イジェクトの権限を変更します。  
終わりましたら、[OK] ボタンをクリックします。



**3 [OK] ボタンをクリックします。**

⇒再起動されます。



# インストールされた情報を削除するには

ユーティリティを再インストールする場合は、インストールされた情報を削除（アンインストール）する必要があります。

**1 パソコンの電源を切り、本製品を取り外します。**

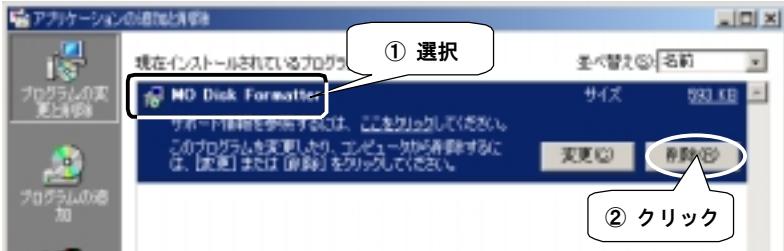
**2 Administrator権限を持つユーザーでログインします。**

**3 「アプリケーションの追加と削除」を起動します。**

[スタート] → [設定] → [コントロールパネル] の順にクリックします。  
表示された「コントロールパネル」内の「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。

**4 [MO Disk Formatter] を指定します。**

[MO Disk Formatter] を選択し、[削除] ボタンをクリックします。



**5 [はい] ボタンをクリックします。**



**6 [はい] ボタンをクリックします。**

⇒再起動が行われます。



# **MEMO**

# Windows NT 3.51でご使用の場合

ここではWindows NT 3.51で使用する際の設定について説明します。

## SCSI-IDを設定しよう

本製品のSCSI-IDを設定する方法を説明します。(68ページ)

## インストールしよう

本製品を使えるようにします。(69ページ)

## MOディスクを使ってみよう

MOディスクに関する説明をします。(71ページ)

## インストールされた情報を削除するには

本製品を取り外すときや、  
Windows NT 4.0にアップグレードするとき  
に必要な作業を説明します。(75ページ)

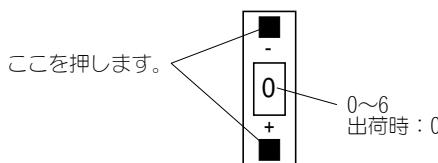
# SCSI-IDを設定しよう

SCSI-ID設定用スイッチによる設定は、必ずパソコンおよび周辺機器の電源がOFFの状態で行ってください。

## ● SCSI-IDの設定

本製品のSCSI-ID設定用スイッチで、0~6の間で設定します  
(7は通常SCSIインターフェイスが使用)。

設定は、図の黒い部分をシャープペンシルなどの先の固いもので押して、  
行ってください。



以下のようにSCSI-IDを設定してください。

### 本製品のみを接続している場合

SCSI-ID=0：本製品（初期値。変更の必要はありません。）

### 複数のSCSI機器を接続している場合

- PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシンの場合  
他のSCSI機器と重ならないように、SCSI-IDを設定してください。
- PC-9800シリーズでSCSIインターフェイスボードをお使いの場合  
0から連続して設定する必要があります。  
例)SCSI-ID=0 : HDD  
SCSI-ID=1 : 本製品  
SCSI-ID=2 : CD-ROM
- PC-9800シリーズでSCSI PCカードをお使いの場合  
他のSCSI機器と重ならないように、SCSI-IDを設定してください。

# インストールしよう

ここでは本製品をWindows NT 3.51上で動かすための設定を行います。

## 1 周辺機器・パソコンの電源を入れ、Windows NT 3.51を起動します。

周辺機器の電源を入れてから、パソコンの電源を入れて、Windows NT 3.51を起動します。

起動途中でパソコンが止まる場合は、SCSI-IDが重なっているか、SCSIケーブルや電源ケーブル等の取り付けが正常に行われていないことが考えられます。  
再度ご確認ください。

## 2 『コントロールパネル』内の『デバイス』を起動します。

プログラムマネージャで『メイン』グループから『コントロールパネル』を開き、『デバイス』を起動します。

## 3 「Scsim0」を選択し、[スタートアップ]ボタンをクリックします。

## 4 「ブート」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

## 5 [はい] ボタンをクリックします。

## 6 [終了] ボタンをクリックします。

## 7 『コントロールパネル』を終了します。

## 8 「ディスクアドミニストレータ」を起動します。

プログラムマネージャで『管理ツール』グループから「ディスクアドミニストレータ」を起動します。

(起動時に「ディスクnに署名がありません。…」と表示されたら[OK]ボタンをクリックします。

nにはドライブ名が入ります。)

インストールしよう

**9 「光磁気ディスク ドライブ文字」を選択します。**

「ツール」を選択し、メニューから「光磁気ディスク ドライブ文字」を選択します。

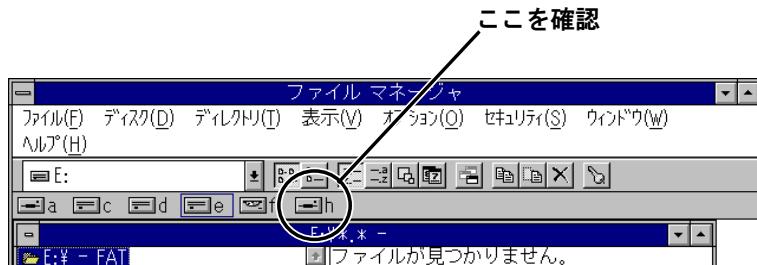
**10 割り当てるドライブ文字を選択し、[変更]ボタンを押します。**

本製品に割り当てるドライブ文字を選択し、[変更]ボタンを押します。

**11 [はい] ボタンをクリックします。**

**12 本製品が表示されていることを確認します。**

設定した本製品がファイルマネージャ内に表示されていることを確認します。



インストールは完了です。

Windows NT 3.51からWindows NT 4.0へアップグレードを行う際には、【インストールされた情報を削除するには】(75ページ)の手順を実行してから行ってください。

# MOディスクを使ってみよう

MOディスクの使い方

MOディスクの使い方を説明します。  
(72ページ)

▼  
フォーマットしよう

MOディスクをフォーマットする方法を説明  
します。 (74ページ)

## MOディスクの使い方

### DOS/Vマシンの場合

640/1300MバイトのMOディスクを使用することはできません。

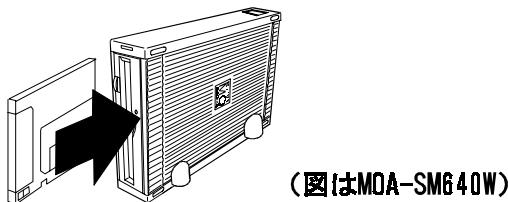
### PC-9800シリーズの場合

PC-9800シリーズで640/1300MバイトのMOディスクをご使用の場合は、フォーマット済みのMOディスクをご使用ください。

### MOディスクを挿入する

**1** MOディスクの表側をアクセスランプに向けてMOディスク挿入口へまっすぐにカチッと音がするまで入れます。

**2** アクセスランプが点灯後、消えることを確認します。



## MOディスクを取り出す

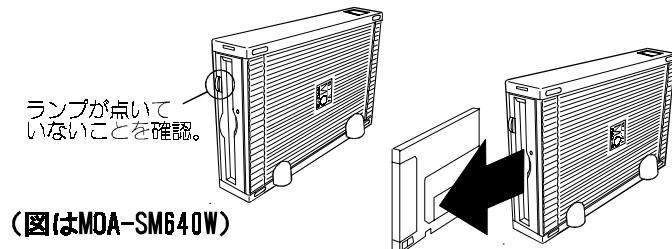
パソコンの電源を切る前に、必ずMOディスクを取り出してください。  
アクセスランプが点灯中にパソコンの電源を切った場合、システムが不安定  
になったり、MOディスクのデータが破損する場合があります。

1 本製品のアクセスランプが消えていることを確認します。

2 Windows上で【取り出し】をクリックします。

本製品のアイコンを右クリックし、表示された【取り出し】をクリック  
します。

⇒自動的にMOディスクが出てきます。



(図はMOA-SM640W)

MOディスクが  
取り出せない

【MOディスクが取り出せない】  
(102ページ)をご覧ください。

## フォーマットしよう

購入されたM0ディスクを使用するためには、一度フォーマットを行う必要があります。下記の手順でフォーマット作業を行ってください。

- 1)Windows NT 3.51ではFATフォーマットのみ行うことができます。  
絶対にNTFSファイルシステムでフォーマットしないでください。
- 2)540MバイトのM0ディスクは、「ファイルマネージャ」からはフォーマットすることはできません。MS-DOSプロンプトから、「FORMAT」コマンドによりフォーマットできます。  
詳細については、「FORMAT/?」と入力してご確認ください。
- 3)DOS/Vマシンで640/1300MバイトのM0ディスクを使用することはできません。
- 4)PC-9800シリーズで640/1300MバイトのM0ディスクを使用する場合は、フォーマット済みのM0ディスクを使用してください。

### 《フォーマット方法》

- 1 「ファイルマネージャ」を起動します。**
- 2 「フロッピーディスクのフォーマット(F)…」を実行します。**

「ディスク(D)」メニューの「フロッピーディスクのフォーマット(F)…」を実行します。

- 3 ドライブと容量を確認し、フォーマットを行います。**

通常は、「クイックフォーマット形式」をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

#### 物理フォーマットを行う場合

「クイックフォーマット形式」のチェックを外して、[OK]ボタンをクリックします。

# インストールされた情報を削除するには

本製品を取り外すときや、Windows NT 4.0にアップグレードする場合は、  
インストールされた情報を削除（アンインストール）する必要があります。  
以下の手順を行ってください。

- 1 『コントロールパネル』内の『デバイス』を起動します。**  
プログラムマネージャで『メイン』グループから『コントロールパネル』  
を開き、『デバイス』を起動します。
- 2 「Scsim0」を選択し、[スタートアップ]ボタンをクリックします。**
- 3 「無効」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。**
- 4 [はい] ボタンをクリックします。**
- 5 [終了] ボタンをクリックします。**

以上でインストールされた情報の削除（アンインストール）は、  
完了しました。

# **MEMO**

# Windows 3.1、MS-DOSでご使用の場合

ここではWindows 3.1およびMS-DOS (PC DOS) で使用する際の設定について説明します。

**SCSI-IDを設定しよう**

本製品のSCSI-IDを設定する方法を説明します。(78ページ)

▼  
**インストールしよう**

本製品を使えるようにします。(79ページ)

▼  
**MOディスクを使ってみよう**

MOディスクに関する説明をします。(83ページ)

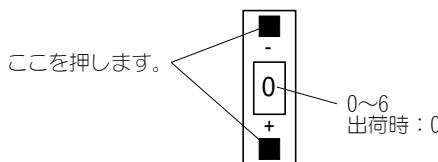
# SCSI-IDを設定しよう

SCSI-ID設定用スイッチによる設定は、必ずパソコンおよび周辺機器の電源がOFFの状態で行ってください。

## ● SCSI-IDの設定

本製品のSCSI-ID設定用スイッチで、0~6の間で設定します  
(7は通常SCSIインターフェイスが使用)。

設定は、図の黒い部分をシャープペンシルなどの先の固いもので押して、  
行ってください。



以下のようにSCSI-IDを設定してください。

### 本製品のみを接続している場合

#### DOS/Vマシンの場合

SCSI-ID=0：本製品（初期値。変更の必要はありません。）

#### PC-9800シリーズの場合

- 128/230/540MバイトのMOディスクのみを使用する場合

SCSI-ID=0：本製品（初期値。変更の必要はありません。）

- 640/1300MバイトのMOディスクを使用する場合

SCSI-ID=1：本製品

（ただし、NEC製 PC-9821X-B02Lや、Adaptec製 AHA-2940JといったSCSIインターフェイスボードをご使用の場合は、本製品のみではご使用いただけません。他のSCSI機器が最低1台必要です。）

### 複数のSCSI機器を接続している場合

#### DOS/Vマシンの場合

他のSCSI機器と重ならないように、SCSI-IDを設定してください。

#### PC-9800シリーズの場合

- 128/230/540MバイトのMOディスクのみを使用する場合

0から連続して設定する必要があります。

例) SCSI-ID=0 : HDD

SCSI-ID=1 : CD-ROM

SCSI-ID=2 : 本製品

- 640/1300MバイトのMOディスクを使用する場合

連続した他のSCSI機器と離して設定する必要があります。

例) SCSI-ID=0 : HDD

SCSI-ID=1 : CD-ROM

SCSI-ID=3 : 本製品

SCSI PCカードに接続してお使いの場合は、DOS/Vマシンをお使いの場合と同じです。

# インストールしよう

ここでは本製品をWindows 3.1, MS-DOS (PC DOS) 上で動かすために、MOF/MOAシリーズサポートソフトをインストールします。

- 1) DOS/Vマシンで使用する場合は、この手順の前にSCSIインターフェイス付属のASPIマネージャを組み込む必要があります。  
組み込み方法はご使用のSCSIインターフェイスの取扱説明書をご参照ください。
- 2) SCSI PCカードで使用する場合は、この手順の前にSCSI PCカードのドライバを組み込む必要があります。  
組み込み方法はご使用のSCSIインターフェイスの取扱説明書をご参照ください。

## 1 パソコンの電源を入れ、MS-DOSを起動します。

Windows 3.1が起動した場合は、終了してください。

(Windows 3.1のDOSプロンプトでは実行できません。)

起動途中で  
パソコンが  
止まる

【パソコンが起動しない】  
(102ページ)をご覧ください。

## 2 「MOF/MOAシリーズサポートソフト」を挿入します。

## 3 インストーラを起動します。

下記のように入力して、**[Enter]**キーを押します。

A:¥DOS¥INSTALL

(フロッピードライブがAドライブの場合の例)

## 4 **[Enter]**キーを押します。

## 5 **[Enter]**キーを押します。

## 6 インストール先を入力し、**[Enter]**キーを押します。

通常はそのまま**[Enter]**キーを押します。

## 7 [Y] キーを押します。

インストールしよう

**8** キーを押します。

**9** 接続状況により、以下の2通りの画面が表示されます。

《画面1》の場合

そのままキーを押します。

《画面1》

DOSがMOを認識しているので、デバイスドライバは必要ありません。したがって、デバイスドライバは組み込みません。

[RETURN]:続行 [ESC]:インストール中止

《画面2》の場合

DOS/Vマシンで複数パーティションに区切られたMOディスクをご使用の場合は[MODISKX.SYS]を、その他の場合は[MODISK.SYS]を選んで、キーを押します。

《画面2》

デバイスドライバの選択

メディアへアクセスするためにデバイスドライバが必要です。

どちらのデバイスドライバを使用しますか？

※1 DOS/V機のFDISK形式で領域が作成されているメディアをアクセスする場合は MODISKX.SYS を選択して下さい。

※2 MODISKX.SYS は 640MB/1.3GBのメディアを扱えませんのでご注意下さい。

通常は MODISK.SYS をお使い下さい。

MODISK.SYS

MODISKX.SYS

[←][→]:選択 [ENTER]:決定 [ESC]:インストール中止

**10** 起動ドライブ名を確認し、キーを押します。

起動ドライブ名（環境ファイルがあるドライブ）を確認します。

**11** 「[はい]」を選び、キーを押します。

**12** 「MOF/MOAシリーズサポートソフト」を抜きます。

## 13 パソコンを再起動します。

## 14 MOドライブを確認します。

MOディスクを入れない状態で次の確認を行ってください。

### 《Windows 3.1の場合》

ファイルマネージャで該当するドライブが表示されることを確認します。

### 《MS-DOS (PC DOS) の場合》

以下のように入力し、**Enter**キーを押します。

接続状態とドライブ名が表示されますので、確認します。

通常 MOUTL L

PC-9800シリーズで  
SCSI PCカードに接続 MOUTL L /ASPI

## 15 CONFIG.SYSの内容を確認します。

以下の例は、標準のインストール先ディレクトリの場合です。

また、DOS/VマシンはCドライブ、PC-9800シリーズはAドライブにインストールした例です。

### 《DOS/Vマシンの場合》

#### ・ MODISK.SYSの登録を選んだ場合

以下の1行が追加されています。

DEVICE=C:¥DDEV¥MOD¥MODISK.SYS /ID=xy

(xはホストアダプタ番号、yはターゲットID)

#### ・ MODISKX.SYSの登録を選んだ場合

以下の1行が追加されています。

DEVICE=C:¥DDEV¥MOD¥MODISKX.SYS /ID=xy /PARTITION=z

(xはホストアダプタ番号、yはターゲットID、zはパーティション数)

インストールしよう

#### 《PC-9800シリーズの場合》

以下の1行が追加されています。

```
DEVICE=A:¥DDEV¥MOD¥MODISK.SYS /ID=xy
```

(xはホストアダプタ番号、yはターゲットID)

- 1) マルチコンフィグ機能を使用している場合は、CONFIG.SYSに設定されたSCSIデバイス用の記述を[COMMON]領域（または各環境領域）に移動してください。
- 2) 弊社製RMシリーズを使用している場合、インストーラは自動的にRMシリーズのドライバを無効にし、MOF/MOAシリーズのドライバを組み込みます。  
例 ) REM DEVICE=C:¥DDEV¥RMD¥RMDISK.SYS RMシリーズのドライバ  
DEVICE=C:¥DDEV¥MOD¥MODISK.SYS MOF/MOAシリーズのドライバ
- 3) PC-9800シリーズでSCSI PCカードに本製品を接続している場合は、さらに「/ASPI」と付けてください。  
例 ) DEVICE=A:¥DDEV¥MOD¥MODISK.SYS /ID=xy /ASPI

## 16 AUTOEXEC.BATの内容を確認します。

以下の例は、標準のインストール先ディレクトリの場合です。

また、DOS/VマシンはCドライブ、PC-9800シリーズはAドライブにインストールした例です。

#### 《DOS/Vマシンの場合》

以下の1行が追加されます。

```
PATH=C:¥DDEV¥MOD;%PATH%
```

#### 《PC-9800シリーズの場合》

以下の1行が追加されます。

```
PATH=A:¥DDEV¥MOD;%PATH%
```

インストール完了です。

本製品のSCSI-IDを変更した場合は、もう一度インストールを行ってください。

# MOディスクを使ってみよう

MOディスクの使い方

MOディスクの使い方を説明します。  
(84ページ)

▼  
フォーマットしよう

MOディスクをフォーマットする方法を説明  
します。 (85ページ)

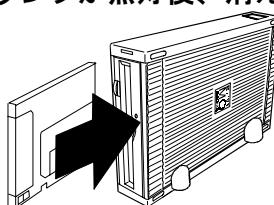
▼  
MOディスクから起動するには  
(PC-9800シリーズのみ)

MOディスクから起動する方法について説明  
します。 (87ページ)

# MOディスクの使い方

## MOディスクを挿入する

- 1 MOディスクの表側をアクセスランプに向けてMOディスク挿入口へまっすぐにカチッと音がするまで入れます。
- 2 アクセスランプが点灯後、消えることを確認します。

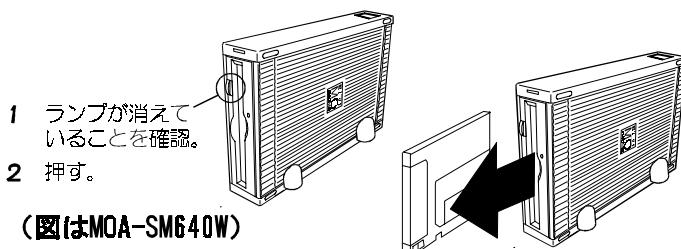


(図はMOA-SM640W)

## MOディスクを取り出す

パソコンの電源を切る前に、必ずMOディスクを取り出してください。  
アクセスランプが点灯中にパソコンの電源を切った場合、システムが不安定になったり、MOディスクのデータが破損する場合があります。

- 1 本製品のアクセスランプが消えていることを確認します。
- 2 イジェクトボタンを押します。



MOディスクが  
取り出せない

【MOディスクが取り出せない】  
(102ページ)をご覧ください。

# フォーマットしよう

購入されたMOディスクを使用するためには、一度フォーマットを行う必要があります。下記の手順でフォーマット作業を行ってください。

## 1 周辺機器の電源を入れてから、パソコンを起動します。

Windows 3.1が起動した場合は終了して、MS-DOSのプロンプト状態にします。  
(WindowsのDOSプロンプトでは動作できません。)

## 2 MOUTLを起動します。

以下のように入力し、**[J]**キーを押します。

通常 MOUTL

PC-9800シリーズで  
SCSI PCカードに接続 MOUTL /ASPI

## 3 本製品を選び、**[J]**キーを押します。

接続されているMOドライブが表示されるので、[↑][↓]キーで対象の本製品を選び、**[J]**キーを押します。

## 4 本製品にMOディスクを挿入します。

アクセスランプが一度点灯して消灯することを確認します。

## 5 [↑][↓]キーで[フォーマット]を選び、**[J]**キーを押します。

M0ディスクを使ってみよう  
フォーマットしよう

## 6 [↑][↓][←][→]キーで項目を選びます。

- ・物理フォーマット：通常は[しない]を選びます。
- ・論理フォーマット：通常は[IBMフォーマット]を選びます。
- ・システム転送：PC-9800シリーズのみ可能です。起動M0ディスクを作るときに[する]を選びます。640M/バイト, 1300M/バイトのディスクに対しては行うことができません。
- ・ボリュームラベル：ラベル名を指定したいときに入力します。

## 7 「実行」にカーソルを合わせ、[↓]キーを押してください。

フォーマットを開始します。

## 8 [↓]キーを押し、[ESC]キーを何度か押します。

フォーマットが終わるとM0ディスクが排出されるので[↓]キーを押すと、手順3の画面に戻ります。

DOSプロンプト状態になるまで[ESC]キーを押します。

# MOディスクから起動するには (PC-9800シリーズのみ)

PC-9800シリーズでは、下記の手順でフォーマットすることにより、ハードディスクやフロッピーディスクと同様にMOディスクからの起動が可能になります。

- 1) 640/1300MバイトのMOディスクを起動ディスクとして使用することはできません。
- 2) 以下の環境でご使用の場合は、MOディスクからの起動は行えません。
  - ・ DOS/Vマシンでご使用の場合
  - ・ BIOSのないSCSIインターフェイスボードに接続してご使用の場合
  - ・ 640/1300MバイトのMOディスクが認識できる設定にした場合

## 1 MOUTLを起動します。

以下のように入力し、**[Enter]**キーを押します。

**通常**      MOUTL

**SCSI PCカードに接続**      MOUTL /ASPI

## 2 システム転送を「する」にしてフォーマットします。

MOUTLを使い、システム転送を「する」に設定してMOディスクをフォーマットします。（【フォーマットしよう】(85ページ) 参照）

## 3 パソコンを再起動します。

## 4 自動的にMOディスクからシステムが起動します。

起動後はドライブ名が変わるので、ご注意ください。

例) ハードディスクドライブがA、Bドライブ、フロッピーディスクドライブがCドライブだった場合、本製品から起動後は、

Aドライブ：本製品

Bドライブ：フロッピーディスクドライブ

C, Dドライブ：ハードディスクドライブ

# **MEMO**

# Macintoshシリーズでご使用の場合

ここでは本製品をMacintoshシリーズで使用する際の設定について説明します。

本製品のモードスイッチをMacintoshシリーズ用（3もしくは7）に設定したかどうかご確認ください。

モードスイッチの設定については、【 モードスイッチの設定】(27ページ)をご覧ください。

## SCSI-IDを設定しよう

本製品のSCSI-IDを設定する方法を説明します。（90ページ）



## MOディスクを使ってみよう

MOディスクに関する説明をします。（92ページ）

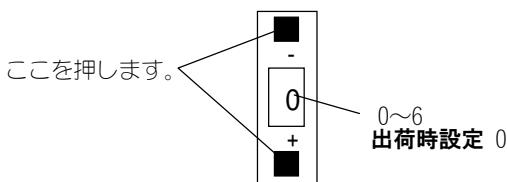
# SCSI-IDを設定しよう

SCSI-ID設定用スイッチによる設定は、必ずパソコンおよび周辺機器の電源がOFFの状態で行ってください。

## ● SCSI-IDの設定

本製品のSCSI-ID設定用スイッチで、0～6の間で設定します  
(7は通常SCSIインターフェイスが使用)。

設定は、図の黒い部分をシャープペンシルなどの先の固いもので押して、  
行ってください。



● Macintoshシリーズが既に使用しているSCSI-ID

[デスクトップ]

使用済みSCSI-ID	機種名
7※1	PowerMacintosh G3 DTシリーズ、MTシリーズ PowerMacintosh 9600, 9515, 9500, 8600, 8515, 8500, 8115, 8100, 7600, 7500, 7300, 5500, 4400 twentieth anniversary Macintosh Quadra 950, 900 LC630※2
0、7	Quadra 800※2, 700 Centris 650※2, 610※2 Macintosh II シリーズ（IIを除く、またvi, vxはCDなしモデルの場合） LC II, III, 475 Performa 275 Color Classic I, II SE/30 Classic II
3、7	PowerMacintosh 6300, 6200 LC630※3 Performa 6000シリーズ、5000シリーズ、630, 588
0, 3、7	PowerMacintosh 7215, 7200, 7100, 6100 Quadra 840AV, 800※3, 660AV, 650, 610 Centris 650※3, 610※3 Macintosh II vi※3, vx※3 Performa 575, 550, 520 LC575, 520

※1…………Zipドライブを搭載している場合は、さらにSCSI-IDの5を使用します。

※2…………CD-ROMドライブなしのモデル

※3…………CD-ROMドライブ搭載モデル

Power Macintosh G3(Blue and White), Power Macintosh G4で、SCSIインターフェイスボードを取り付けた場合は、SCSIインターフェイスでSCSI-IDを1つ使用します。弊社製 SC-APシリーズおよびSC-APUNシリーズの場合は、SCSI-ID=「7」を使用します。

[PowerBook (ノート)]

使用済みSCSI-ID	機種名
7	PowerBook G3シリーズ※4 PowerBook G3/250, 3400, 2400, 1400, 1000, 190
0、7	PowerBook Duoシリーズ (別途SCSIポートのあるドッキングステーションが必要) PowerBook 500シリーズ、100シリーズ（100, 190を除く）

※4…………標準SCSIポート搭載機種のみ対応。

# MOディスクを使ってみよう

MOディスクの使い方

MOディスクの使い方を説明します。  
(93ページ)

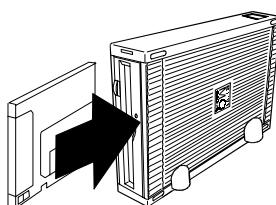
▼  
イニシャライズしよう

MOディスクをフォーマットする方法を説明  
します。 (94ページ)

# MOディスクの使い方

## MOディスクを挿入する

- 1** MOディスクの表側をアクセスランプに向けてMOディスク挿入口へまっすぐにカチッと音がするまで入れます。
- 2** アクセスランプが点灯後、消えることを確認します。



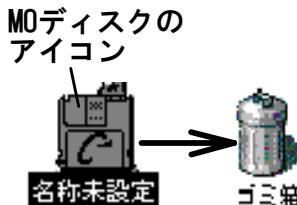
(図はMOA-SM640W)

## MOディスクを取り出す

以下の操作は、フォーマッタソフト（「B'sCrew ver.3」など）をインストール後に可能になります。

- 1** 本製品のアクセスランプが消えていることを確認します。
- 2** 画面上のMOディスクのアイコンをごみ箱に移します。

⇒自動的にMOディスクが出てきます。



MOディスクが取り出せない

【MOディスクが取り出せない】(102ページ)をご覧ください。

## イニシャライズしよう

Macintoshシリーズで未フォーマットのMOディスクを使用するには、フォーマッタソフトでイニシャライズを行う必要があります。

本製品にはフォーマッタソフトは添付されておりません。

別途ご準備いただいた上、MOディスクのイニシャライズを行ってください。

次ページからはビー・エイチ・エー社製「B'sCrew ver.3」を使ったイニシャライズ方法を説明しています。

1) ここでの手順は参考例です。

実際に手順を行う際には、必ず『B'sCrew ユーザーズマニュアル』をご参照ください。

2) B'sCrewに関する質問・お問い合わせは、『B'sCrewユーザーズマニュアル』をご参照になり、ビー・エイチ・エー社までお問い合わせください。

3) ビー・エイチ・エー社製「B'sCrew ver.3」をご使用の場合、ブートキーボード機能は機種によっては利用できない場合があります。

4) ビー・エイチ・エー社製「B'sCrew」を使用し、「HFS+」でイニシャライズ後、「パーティションの編集」でボリュームラベルを変更した場合は、一旦 MOディスクを抜き差ししてください。そのまま「Disk First Aid」を実行すると、エラーが出る場合があります。

この場合、「Disk First Aid」で修復することにより解決されます。

(通常、ボリューム名の変更はfinder上で行ってください。)

5) Mac OS 8.5.1以前のバージョンにて、ビー・エイチ・エー社製「B'sCrew」を使用して540MバイトのMOディスクを「HFS+」でイニシャライズ後に、「Disk First Aid」を実行するとエラーがでる場合があります。

このエラーについてはMac OS 8.6で修正されています。

M0ディスクを使ってみよう  
イニシャライズしよう

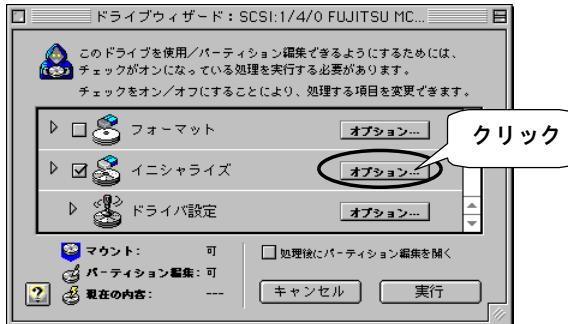
## 1 B'sCrewを起動します。

インストールしていない場合は、『B'sCrewユーザーズマニュアル』に従ってB'sCrewをインストールしてください。起動方法については『B's Crewユーザーズマニュアル』を参照してください。

## 2 イニシャライズをするM0ディスクを本製品にセットします。

⇒自動でウィンドウが表示されます。

## 3 [オプション] ボタンをクリックします。



## 4 イニシャライズオプションの設定を行います。

「パーティション数」には、このドライブを分割する数を入力します。

「パーティションタイプ」は、OSによって選べる場合があります。



HFS : 古いOSでも認識することができます。

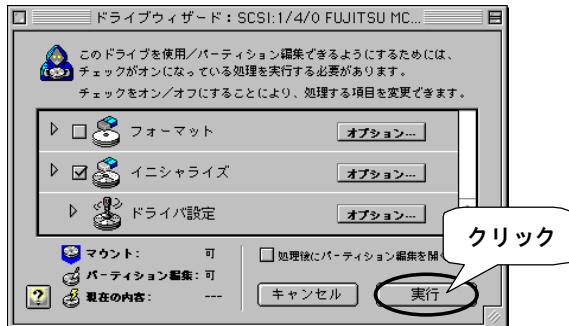
HFS+ : Mac OS 8.0以前のOSでは認識できないが、小さいサイズの書類を利用することが多い場合に容量を有効に使えます。

終わりましたら、[OK] ボタンをクリックします。[OK] ボタンがクリックできない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。

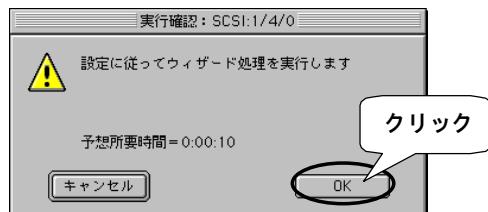
⇒ドライブウィザードに戻ります。

M0ディスクを使ってみよう  
イニシャライズしよう

## 5 [実行] ボタンをクリックします。

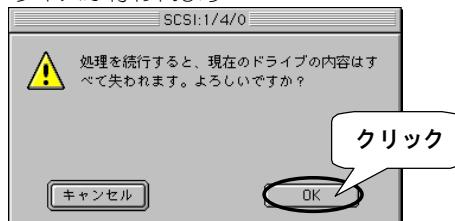


## 6 [OK] ボタンをクリックします。



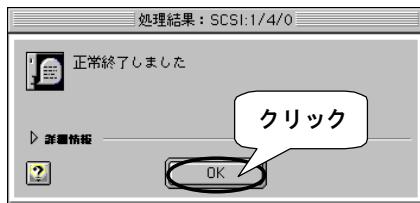
## 7 [OK] ボタンをクリックします。

⇒イニシャライズが行われります



M0ディスクを使ってみよう  
イニシャライズしよう

8 [OK] ボタンをクリックします。



以上で、イニシャライズは終了です。  
ここまで手順で名称未設定のドライブアイコンがデスクトップ上に表示されます。

# **MEMO**

# 付録

## 困ったときには

本製品を使用中に、異常があったときに  
ご覧ください。(100ページ)

## HDDモードについて

HDDモードに関する説明をします。  
(113ページ)

## RINGOWIN LEについて

RINGOWIN LEについての説明です。  
(116ページ)

## B'sCrew Backup for Windows について

B'sCrew Backup for Windowsについての説明  
です。(117ページ)

## DOSドライバ詳細

DOS用ドライバの詳しい説明です。  
(119ページ)

## 用語解説

本書内の用語を説明します。(127ページ)

## オプション品について

本製品のオプション品について説明します。  
(129ページ)

## ハードウェア仕様

本製品の仕様を説明します。(130ページ)

# 困ったときには

## 共通のトラブル

使用中にデータエラーが発生する	101
フォーマットや書き込み作業中に処理が中断される	
M0ディスクにファイルの書き込みができない	
M0ディスクが取り出せない	
パソコンが起動しない	102

## Windows 98/95/2000/NT 4.0でのトラブル

「マイコンピュータ」の中に〔リムーバブルディスク〕アイコンがない	103
「M0フォーマット」が表示されない(Windows 2000は除く)	104
フォーマット済みのM0ディスクなのに、「パラメータに誤りがあります」と表示される(Windows NT 4.0のみ)	
PC98-NXシリーズをお使いで、〔デバイスマネージャ〕タブが表示されない	105
M0ディスクにスキャンディスクを実行するとエラーが出る	
OS標準のバックアップツールでバックアップできない	106
インストール中にエラー画面が表示される(Windows 98 SEのみ)	
ユーザー権限で、M0ディスクをフォーマット/イジェクトすることができない(Windows 2000のみ)	
十分な空き容量があるのに書き込みができない	107
ファイルの読み書きができない	
「ドライブのロックに失敗しました」と表示される(Windows 2000のみ)	108

## Windows 3.1, MS-DOSでのトラブル

ファイルの読み書きができない	110
640/1300MバイトのM0ディスクにアクセスできない	

## Macintoshシリーズでのトラブル

640/1300MバイトのM0ディスクから起動できない	111
-----------------------------	-----

困ったときには

## 共通のトラブル

### 使用中にデータエラーが発生する

#### 原因1 ケーブルが長い、もしくは品質が悪いため、ノイズの影響を受けている

SCSIインターフェイスボードの設定で、本製品が該当するSCSI-IDの同期転送速度を下げてみてください。（詳細は、お使いのSCSIインターフェイスボードの取扱説明書参照）

また、SCSIケーブルを短いものに変更してみてください。

#### 原因2 本製品のヘッドレンズが汚れている

市販の専用ヘッドクリーナ〔富士通製 光磁気ディスククリーニングカートリッジ（商品番号 0240470）〕を使用して、本製品のヘッドレンズのクリーニングを行ってください。

### フォーマットや書き込み作業中に処理が中断される

#### 原因 長時間の使用により高温になり、安全装置が働いた

システムを終了してパソコン本体の電源を切り、本製品が冷えるまでしばらくお待ちください。

本製品を取り付ける際には、他のドライブと離すなど、取り付け位置を工夫してMOドライブの温度が上がりすぎないようにしてください。

### MOディスクにファイルの書き込みができない

#### 原因 MOディスクがライトプロテクトされている

MOディスクのライトプロテクトを解除してから、ファイルを書き込んでください。ライトプロテクトについては、MOディスクの説明をご覧ください。

困ったときには  
共通のトラブル

## MOディスクが取り出せない

### 原因1 本製品の電源が入っていない

本製品の電源を入れた状態で、MOディスクを取り出してください。

### 原因2 機械的な故障や、その他の理由で取り出せない

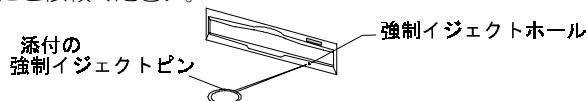
パソコン本体の電源を切ってから、本製品の電源を切ります。

添付の強制イジェクト・ピンを強制イジェクト・ホールに約25mmほど差し込むとイジェクトします。

※ これは、緊急時の操作です。

むやみにご使用になると故障の原因となります。

この操作で取り出せない場合は、無理に引き出さず、弊社修理係にご依頼ください。



## パソコンが起動しない

### 原因 取り付け方法や、SCSI-IDの設定が正しくない

取り付け方法やSCSI-IDの設定を確認してください。

(【取り付けよう】(28ページ)、各OSの【SCSI-IDを設定しよう】	
(Windows 98/95/NT 4.0の場合.....	34、
Windows 2000の場合.....	54、
Windows NT 3.51の場合 .....	68、
Windows 3.1およびMS-DOS(PC DOS)の場合 .....	78、
Macintoshの場合 .....	90)
参照)	

困ったときには

# Windows 98/95/2000/NT 4.0でのトラブル

「マイコンピュータ」の中に【リムーバブルディスク】アイコンがない

いくつかの原因が考えられますので、以下の手順で確認を行ってください。

**1 「マイコンピュータ」を開きます。**

**2 【最新の情報を表示】します。**

【表示】→【最新の情報を表示】の順にクリックします。

 表示されたかどうか確認

**3 本製品とパソコンの接続を確認します。**

本製品をパソコンから取り外し、再び取り付けて（【取り付けよう】（28ページ））ください。

 表示されたかどうか確認

**4 SCSIインターフェイスの設定を確認します。**

SCSIインターフェイスが正しく認識されているかをご確認ください。  
方法については、SCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧ください。

 表示されたかどうか確認

**5 ハードディスクを確認します。**

フォーマットされていない領域のあるハードディスクがある場合は、  
フォーマットされていない領域をフォーマットしてください。  
フォーマットが終わりましたら、OSを再起動してください。

 表示されたかどうか確認

**6 Windows 98/95の場合は、ドライブ名の予約を行います。**

【ドライブ名の予約（Windows98/95のみ）】（109ページ）をご覧ください。

困ったときには  
Windows 98/95/2000/NT 4.0でのトラブル

### 「MOフォーマット」が表示されない(Windows 2000は除く)

#### 原因1 MOディスクが挿入されていない(Windows NT 4.0のみ)

MOディスクを本製品に挿入してお試しください。

#### 原因2 アドミニストレータ権限でログインしていない (Windows NT 4.0のみ)

アドミニストレータ権限のあるユーザーで行ってください。

#### 原因3 MOドライブのインストールが正しく行われていない か、設定が正しくない

[スタート] → [プログラム] → [M0FM0Aシリーズサポートソフト] があるかどうか、確認します。

**無い場合は**、【インストールしよう】(35ページ)を行います。

**ある場合は**、さらにその先の【MOフォーマットアシストの設定】をクリックし、「MOフォーマットアシストを有効」にします。

**すでに「MOフォーマットアシストを有効」になっていた場合は**、

【インストールされた情報を削除するには】(50ページ)の作業を行い、その後、もう一度【インストールしよう】(35ページ)を行ってください。

#### 原因4 SCSIインターフェイスの設定が正しくない

SCSIインターフェイスが正しく認識されているかをご確認ください。方法については、SCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧ください。

### フォーマット済みのMOディスクなのに、 「パラメータに誤りがあります」と表示される(Windows NT 4.0のみ)

#### 原因 使用できないフォーマット形式のMOディスクである

「MOフォーマット」で、フォーマットしてください。

ただし、MOディスク内のデータは全て消去されます。

困ったときには  
Windows 98/95/2000/NT 4.0でのトラブル

## PC98-NXシリーズをお使いで、【デバイスマネージャ】タブが表示されない

### 原因 デバイスマネージャを表示できる設定になっていない

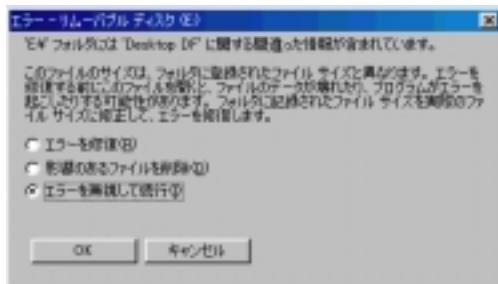
デバイスマネージャが表示される設定に変更してください。

設定方法については、パソコン本体取扱説明書をご覧になるか、パソコンメーカーにお問い合わせください。

## M0ディスクにスキャンディスクを実行するとエラーが出る

### 原因 1 そのM0ディスクを一度Macintoshで使っている

一度、Mac上にマウントしたDOSフォーマットのM0ディスクにスキャンディスクを実行した場合、エラーが表示される場合があります（ファイル「Desktop DF」は、Mac OS上で管理に必要な情報が含まれたファイルです）。この場合は、「エラーを無視して続行」を選んでください。



### 原因 2 M0ディスクが壊れているか、中のデータが壊れている

- ① [マイコンピュータ] アイコンをダブルクリックします。
- ② 中の [リムーバブルディスク] アイコンを右クリックします。
- ③ 表示された [プロパティ] をクリックします。
- ④ [ツール] タブをクリックします。
- ⑤ [チェックする] ボタンをクリックし、M0ディスクを修復してください。

困ったときには  
Windows 98/95/2000/NT 4.0でのトラブル

### OS標準のバックアップツールでバックアップできない

#### 原因 MOディスクに対応していない

OS標準のバックアップツールではMOディスクのバックアップは行えません。

### インストール中にエラー画面が表示される(Windows 98 SEのみ)



#### 原因 MOA-i/1394シリーズを使っていない

MOA-i/1394シリーズをすでにお使いの場合、上の画面が表示されることはありません。[OK] ボタンをクリックし、もう一度【インストールしよう】(35ページ)の作業を行ってください。その際、手順5で【いいえ】をクリックしてください。

### ユーザー権限で、MOディスクをフォーマット／イジェクトすることができない(Windows 2000のみ)

#### 原因 「フォーマット／イジェクト権限変更ツール」で権限を「全てのユーザー」にしていない

Windows 2000は、そのままではユーザー権限にてMOディスクのフォーマット／イジェクトを行うことはできません。

【「フォーマット／イジェクト権限変更ツール」について】(64ページ)をご覧になり、権限を「全てのユーザー」にしてください。

## 十分な空き容量があるのに書き込みができない

### 原因

#### ルートフォルダに置くことの出来るファイル数を超えている

ルートフォルダ（MOディスクの一番上）に置くことの出来るファイル（フォルダ）の数には制限があります。制限を超えると空き容量があってもエラーが表示され、書き込む事が出来なくなることがあります。

その場合は、フォルダを作成し、その中にファイルを書き込んでください。フォルダが作成できない場合は、ファイルをいくつか削除した後、フォルダの作成を行ってください。

作成されたフォルダ内ではファイル数の制限はありません。

## ファイルの読み書きができない

### 原因 1

#### MOディスクが挿入されていない

【MOディスクを挿入する】(43ページ)をご覧になり、MOディスクを挿入してください。

### 原因 2

#### 使用できないフォーマット形式のMOディスクである

例) Macintoshフォーマットの場合

- 1) 付属の「RINGOWIN LE」を使ってください。(128ページ)
- 2) Macintoshと併用しない場合は、【フォーマットしよう】(47ページ)を参照し、フォーマットしてお使いください。  
(データは全てなくなります)

### 原因 3

#### フォーマットされていない

【フォーマットしよう】(44ページ)を参照し、フォーマットしてお使いください。

### 原因 4

#### MOディスクが壊れている

別のMOディスクを使って読み書きできるかを確認してください。

困ったときには  
Windows 98/95/2000/NT 4.0でのトラブル

## 「ドライブのロックに失敗しました」と表示される(Windows 2000のみ)

### 原因 MOディスク内のファイルを開いている

「MOディスクフォーマッタ」の作業時に、他のアプリケーションでMOディスク内のファイルを開いていたり、「エクスプローラ」でMOディスク内を開いていると、このエラーが表示されます。  
MOディスク内を開いているすべてのアプリケーションを終了し、もう一度フォーマット作業を行ってください。

## ドライブ名の予約 (Windows98/95のみ)

### 1 「システムのプロパティ」を開きます。

[マイコンピュータ] アイコンを右クリックし、表示された [プロパティ] をクリックします。

### 2 [デバイスマネージャ] タブをクリックします。

### 3 [種類別に表示] を選択します。

### 4 [ディスクドライブ] をダブルクリックします。

### 5 「本製品のドライバ」をダブルクリックします。

本製品のドライバ名は以下の通りです。

MOA-SM640Wの場合：「FUJITSU MCF3064SS」

MOF-RM1300の場合：「FUJITSU MCE3130SS」

MOF-RM640の場合：「FUJITSU MCE3064SS」

MOF-RM230の場合：「FUJITSU MCE3023SS」

MOF-SM640の場合：「FUJITSU MCF3064SS」

MOF-SM230の場合：「FUJITSU MCF3023SS」

### 6 [設定] タブをクリックします。

### 7 「予約ドライブ文字」を設定します。

[開始ドライブ] と [終了ドライブ] に、使っていない同じドライブ名を入力します。

### 8 [OK] ボタンをクリックします。

### 9 [OK] ボタンをクリックします。

### 10 OSを再起動します。

困ったときには

## Windows 3.1, MS-DOSでのトラブル

### ファイルの読み書きができない

#### 原因 1 MOディスクが挿入されていない

【MOディスクを挿入する】(43ページ)を参照してください。

#### 原因 2 MOディスクのフォーマット形式と本製品の動作モードが異なっている

【DOSドライバ詳細】(119ページ)を参照し、「ファイルタイプの確認」を行います。表示されたモードに合わせて、設定を行ってください。(【■ モードスイッチの設定】(27ページ)参照)

#### 原因 3 使用できないフォーマット形式のMOディスクである

- 1) そのフォーマット形式のパソコンと併用しない場合は、  
【フォーマットしよう】(85ページ)を参照し、フォーマットしてお使いください。(データは全てなくなります)
- 2) Macintoshのフォーマット形式の場合は、付属の「RINGOWIN LE」を使ってください。(116ページ)

#### 原因 4 フォーマットされていない

【フォーマットしよう】(85ページ)を参照してください。

#### 原因 5 MOディスクが壊れている

別のMOディスクを使って読み書きできるかを確認してください。

### 640Mバイト, 1300MバイトのMOディスクにアクセスできない

#### 原因 1 SCSI-IDの設定が正しくない

【SCSI-IDを設定しよう】(78ページ)を参照して、正しく設定します。

#### 原因 2 「MODISKX.SYS」を使用している

「MODISKX.SYS」では640/1300MバイトのMOディスクを使うことはできません。「MODISK.SYS」を使用してください。

# Macintoshシリーズでのトラブル

## 640Mバイト、1300MバイトのMOディスクから起動できない

### 原因1 640/1300MバイトのMOディスクで起動できない機種を使っている

PowerMacintosh G3(Blue and White)/G4シリーズ、PowerBook G3(Bronze Keyboard)では、640/1300MバイトのMOディスクで起動できません。

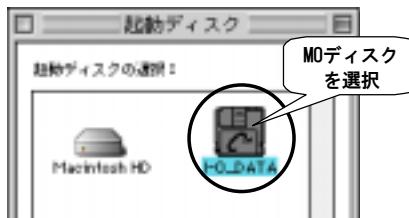
### 原因2 MOディスクが「起動ディスク」に設定されていない そのMOディスクを起動ディスクに設定してください。

**1** 本製品にMOディスクを挿入します。

**2** [起動ディスク]を開きます。

[Appleメニュー] → [コントロールパネル] → [起動ディスク]をクリックします。

**3** MOディスクを選択します。



**4** [起動ディスク]を閉じます。

### 原因3 フォーマッタソフトでイニシャライズしていない

フォーマッタソフトにてイニシャライズを行ってください。

Finderメニューの [特別] → [ディスクの初期化]にて初期化を行ったMOディスクは、起動に使用することはできません。

困ったときには  
Macintoshシリーズでのトラブル

#### **原因4 使用しているSCSIインターフェイスの仕様である**

SCSIインターフェイスによっては、起動（ブート）に対応していないものもあります。起動に対応しているかどうかは、お使いのSCSIインターフェイスの製造メーカーにお問い合わせください。

#### **原因5 MOディスクにOSがインストールされていない**

MOディスクにOSが入っていません。

# HDDモードについて

## ● 動作モードの特徴

本製品シリーズには、「MOモード」および「HDDモード」の2種類の動作モードがあります。

動作モード	特徴
MOモード	アクセスランプが点灯していなければいつでもMOディスクを交換することができます。
HDDモード (Windows 3.1, MS-DOS (PC DOS) 使用時のみ使用 可能)	このモードのとき、本製品はハードディスクとして認識されているため、パソコン起動中にMOディスクを交換できません。

MOモード、HDDモードの詳細については、【用語解説】(127ページ)を参照してください。

## ● HDDモードの動作環境

パソコン	OS	起動	備考
DOS/Vマシン	Windows 3.1, MS-DOS (PC DOS)	△	※1, ※2
PC-9800シリーズ	Windows 3.1, MS-DOS	○	※1, ※3

起動欄：MOドライブからのシステム起動ができるかどうかを示します。

○：使用可      △：一部制限つき使用可

※1 640/1300MバイトのMOディスクは使用できません。

また、SCSI PCカードに本製品を接続していた場合は、起動できません。

※2 IDEタイプのハードディスクと併用する場合は、MOドライブから起動することはできません。

※3 本製品を含め、接続するSCSI機器のSCSI-IDを小さい方から連続した状態で割り当てる必要があります。

PC-9800シリーズにて、MOディスクから起動する場合は、システムの入ったMOディスクを本製品に挿入した状態でパソコンを起動してください。

MOディスクから起動しない場合は、MOディスクが入っていない状態でパソコンを起動してください。

## ● 設定方法

HDDモードに設定する方法は、【■ モードスイッチの設定】(27ページ)を参照してください。

## ● MOディスクの取扱方法

### ・セットする際の注意

パソコン本体の電源を入れる前に、MOディスクをセットしてください。

### ・イジェクト方法

パソコンの電源を切ってから、イジェクトボタンを押してください。

MOディスクが排出されますのでまっすぐ引いて取り出してください。

## ● フォーマットしよう

以下の手順でMOディスクをハードディスクとしてフォーマットすることができます。また、MOディスクから起動させることもできます。

(起動用とする場合は、MOディスクに以下の手順でシステムを転送する必要があります。)

- 1) DOS/VマシンでIDEタイプのハードディスクをご使用の場合は、MOディスクから起動することはできません。
- 2) 640/1300MバイトのMOディスクは使用することはできません。

**1 パソコンの電源を入れる前にMOディスクをセットします。**

**2 本製品の電源を入れ、パソコンを起動します。**

### **3 M0ディスクをハードディスクとしてフォーマットします。**

パソコンが起動後、MS-DOS付属のフォーマットコマンドを使って、M0ディスクをハードディスクとしてフォーマットします。複数のパーティションに分けることもできます。

また、M0ディスクから起動したい場合は以下のコマンド使用時にシステム転送を行ってください。

- ・DOS/Vマシン…………fdisk.com、format.com
- ・PC-9800シリーズ…format.exe（固定ディスクを選択）

（これらコマンドの使用方法はMS-DOS取扱説明書をご参照ください。）

- 1)間違ってハードディスクをフォーマットしないように注意してください。
- 2)640/1300MバイトのM0ディスクはフォーマットできません。

### **4 M0ディスクをセットしたまま、パソコンを再起動します。**

#### **DOS/Vマシンの場合**

自動的にM0ディスクからシステムが起動します。

他のハードディスクからシステムが起動した場合は、そのハードディスクのSCSI-IDが本製品より小さい番号になっている場合です。SCSI-IDをご確認ください。

また、IDEのハードディスクをご使用の場合は、そのハードディスクを取り外すか、無効にしないとM0ディスクから起動することはできません。

#### **PC-9800シリーズの場合**

「固定ディスク起動メニュー」が起動します。

「SCSI固定ディスク #x」（xはSCSI-IDに1を加えた数字）と表示されている装置の中で本製品に該当する装置を選ぶと、M0ディスクから起動します。

（「固定ディスク起動メニュー」の操作方法はパソコン本体の取扱説明書をご参照ください。）

# RINGOWIN LEについて

「Windows 98/95およびWindows 3.1」と「Macintosh」の間でデータ交換を可能にするソフトです。これががあれば、PC-9800シリーズやPC98-NXシリーズおよびDOS/VマシンでMacintoshのデータを受け取ったり、PC-9800シリーズやPC98-NXシリーズおよびDOS/VマシンのデータをMacintosh用に変換して、Macintoshに渡すことができます。

## 【RINGOWIN LEの使用方法について】

本製品に添付のCD-ROMに、「RINGOWIN LE」のプログラム本体とオンラインマニュアルが入っています。

インストール方法や使用方法の詳細は、オンラインマニュアルをご覧になるか、実行中にヘルプを参照してください。

## 《RINGOWIN LEのインストール方法》

RINGOWINフォルダ（ディレクトリ）内の「Setup.exe」を実行します。  
詳細については、オンラインマニュアルをご覧ください。

### オンラインマニュアルについて

添付のCD-ROMのルートフォルダ（ディレクトリ）内にあるRINGWIN.TXT（テキスト形式）またはRWLE\_1.DOC,RWLE\_2.DOC,RWLE\_3.DOC（WORD形式）がオンラインマニュアルです。

WORD形式の画面データなどが見づらい場合は、表示倍率を上げて（拡大して）ご覧ください。

# B'sCrew Backup for Windowsについて

「B'sCrew Backup for Windows」は、お使いのハードディスクなどの内容をバックアップすることのできるソフトウェアです。

## ● 対応機種・OSについて

対応機種：NEC PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシン

SCSI MOドライブの場合は、BIOSが搭載されたSCSIボードに接続されていること。

### BIOSの搭載について

#### ・SCSIボードの場合

お使いのSCSIボードにBIOSが搭載されているかどうかはSCSIボードのメーカーにお問い合わせください。

弊社製 SC-NBPCI, SC-NBUNIはBIOSを搭載していないのでお使いいただけません。

#### ・SCSI PCカードについて

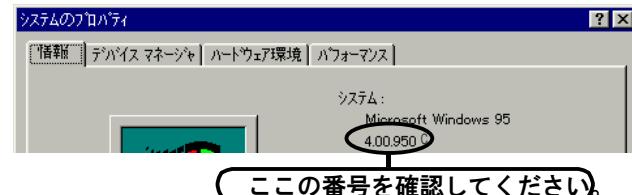
SCSI PCカードはBIOSが搭載されていないためお使いいただけません。

対応OS：Windows 98およびWindows 95 バージョン4.00.950 B/4.00.950 C

### Windows 95のバージョンの確認方法

[スタート] [設定] [コントロールパネル] の順にクリックし、[システム]アイコンをダブルクリックします。

表示される番号がWindows95のバージョンです。



## ● インストールについて

「MOF/MOAシリーズユーティリティソフト」CD-ROMの「BSCREWBK」 - 「DISK1」フォルダ内にある「SETUP.EXE」を起動してください。

## ● ご使用について

ご使用の際は以下のことにご注意ください。

- ・ご使用前に必ずオンラインマニュアル（「MOF/MOAシリーズユーティリティソフト」CD-ROMの「BSCREWBK」フォルダ内にある「MANUAL.PDF」）をご覧ください。

「MANUAL.PDF」をご覧になるには「Acrobat Reader」が必要です。  
インストールされていない場合は、「MOF/MOAシリーズユーティリティソフト」CD-ROMの「BSCREWBK」フォルダ内にある「AR40JPN.EXE」を起動してインストールしてください。

- ・オンラインマニュアルの「B'sCrew Backupの注意事項」(17ページ)を必ずご覧ください。
  - ・「全てをバックアップ」でバックアップした場合は「リストア用起動ディスク」を作る必要があります。
  - ・起動できるようにバックアップするには「このディスクのすべてのパーティションを対象とする(MBRを含む)」を選んでください。
  - ・「Windowsシステム」をバックアップした場合は、リストア後に「Windowsシステムを復旧する」必要があります。また、その際は失敗に備えて「リストア用起動ディスク」を作る必要があります。
  - ・バックアップにM0ディスクを使用する場合は、お使いになるM0ディスクをフォーマットしておく必要があります。
- ※ 用意したM0ディスクの枚数が足りないとはじめからバックアップをやり直すこととなります。

# DOS ドライバ詳細

ここではCONFIG.SYSによるシステム構築について知識のある方を対象に、ディスクドライバなどについて詳しく説明します。

## ● MODISK.SYS

このデバイスドライバは、弊社製MOドライブ専用のASPI対応ディスクドライバです。

プログラム名      **modisk.sys**  
書式                **device=modisk.sys [オプション]**

### 【オプション一覧】

/INFO[=n]	ディスクドライバ組み込み時に、各種の情報を表示します。 nには情報表示のレベル(0~3)を指定します。 =0 情報表示無し =1 ドライブ名とデバイスタイプ、IDの対応を表示(初期設定) =2 ドライブ名とデバイスタイプ、IDの対応を詳細表示 =3 ASPIマネージャの情報表示とドライブ名、デバイスタイプ、IDの対応を詳細表示
/NOLOCK	ディスクアクセス時のMOディスク排出禁止処理を無効にします。 このスイッチが指定されていない場合は、MS-DOSがディスクアクセスを行っている間、誤操作防止のためイジェクトボタンが無効になります。(MS-DOSのバージョンによっては、イジェクトボタンが無効にならない場合があります。)

## DOS ドライバ詳細

/ID=<id>[,<id> [,...]]	<p>本製品や他のSCSI機器が使用しているSCSI-IDを指定します。</p> <p>例) SCSI-IDの0,1を使用している場合  <b>/ID=0,1</b>  <u>このスイッチが指定されていない場合には、すべてのSCSI-IDを検索して使用可能なデバイスを探します。</u></p> <p>また、&lt;id&gt;は以下の形式でも記述できます。</p> <p>&lt;HostAdapter#&gt;&lt;SCSI-ID&gt; または  &lt;HostAdapter#&gt;&lt;SCSI-ID&gt;&lt;LUN&gt;  &lt;HostAdapter#&gt;... 0~9 (SCSI ホストアダプター番号)  SCSIインターフェイスを複数使用する場合、各SCSIインターフェイスに割り当てられている番号  &lt;SCSI-ID&gt;... 0~7 (SCSI-ID)  各SCSIインターフェイスで使用しているSCSI機器のSCSI-ID  &lt;LUN&gt;... 0~7 (論理装置番号)  6連装CD-ROMドライブなど、複数のドライブを切り替えて使用するSCSI機器の論理装置番号</p> <p>&lt;HostAdapter#&gt;は通常「0」となります。（PC-9821シリーズでSCSIインターフェイスを複数使用する場合は、ASPIマネージャが別途必要になります。）</p> <p>例) SCSI-IDの0,1を使用している場合  <b>/ID=00,01</b> または  <b>/ID=000,010</b></p>
/LUN	/ID オプションを指定しない場合の使用可能なデバイス検索で、論理装置番号の全て（0~7）を検索します。 このオプションを指定しなかった場合は、論理装置番号 0 のみの検索となります。
/ASPI	PC-9800シリーズでASPIマネージャを使用する際に指定します。（DOS/Vマシンでは、常に有効となります。） ※ PC-9800シリーズ上で、MOF-ABシリーズと併用する場合やSCSI PCカードに接続する場合は、必ず指定してください。
/PAUSE	このディスクドライバを組み込み中に、表示を一時停止します。
/WCACHE	本製品のライトキャッシュ機能を有効にします。
/NOWCACHE	本製品のライトキャッシュ機能を無効にします。

/IGNERR	ライトキャッシュ使用中に修復不可能な書き込みエラーが発生した場合、確認メッセージを表示後、エラーを無視して処理を続行します。 このスイッチが指定されていない場合には、エラー発生後の該当ドライブへのアクセスは全て拒否され、被害の拡大を抑えます。
/US	強制英語表示指定 (DOS/Vマシンの日本語表示環境でも英語表示をします。)
/FDISK	DOS/Vマシン用のハードディスク・フォーマットされたM0ディスクへのアクセスを許可します。このオプションを指定すると、DOS/Vマシン用ハードディスク・フォーマットされたM0ディスクの第1パーティションのみを読み書きできます。
/NOEXCLUDE	MS-DOS (PC DOS) から認識されているドライブをmodisk.sysの処理対象から除外しません。 通常は、MS-DOS (PC DOS) に認識されているドライブはmodisk.sysの対象外として処理されますか、一部のASPIマネージャとの組み合わせで、このオプション指定が必要となる場合があります。 <u>(通常は設定しないでください。)</u> このオプション指定をする場合は、必ず「/ID」オプションで対象となるドライブを指定してください。 ・「/FDISK」オプションと併用しないでください。

modisk.sysの組み込み時に[CTRL]キーを押していると、組み込みを中止できます。

最大8台までのドライブを制御できます。ただし、modisk.sysの組み込み時に、ドライブ名が「Z:」を越えた場合は、以降のドライブは無視されます。

## ● MODISKX.SYS

**プログラム名** modiskx.sys  
**書式** device=modiskx.sys [オプション]

本ドライバは、DOS/VマシンのFDISKコマンドで複数の領域が作成されているMOディスクをアクセスする場合に使用します。

本ドライバは、1台の物理ドライブで最大4個の論理ドライブに対応しています。（対応できる物理ドライブは最大4台まで。）

各種のMOディスクを挿入した場合の論理ドライブの割り当て方法を下記に示します。（本ドライバで、640/1300M/バイトのMOディスクはアクセスできません。）

論理 ドライブ	スーパーフロッピィ・ フォーマット※		ハードディスク・ フォーマット※				その他の形式
	IBM形式	非IBM形式	割り当てる 論理 ドライブ数1	割り当てる 論理 ドライブ数2	割り当てる 論理 ドライブ数3	割り当てる 論理 ドライブ数4	
1番目	ディスク イメージ	ディスク イメージ	最初の 有効な領域	最初の 有効な領域	最初の 有効な領域	最初の 有効な領域	Unknown Media
2番目	Not Ready	Not Ready	Not Ready	2番目の 有効な領域	2番目の 有効な領域	2番目の 有効な領域	Not Ready
3番目	Not Ready	Not Ready	Not Ready	Not Ready	3番目の 有効な領域	3番目の 有効な領域	Not Ready
4番目	Not Ready	Not Ready	Not Ready	Not Ready	Not Ready	4番目の 有効な領域	Not Ready

ディスクイメージ：通常のMOディスクとして認識できます。

※640MBのMOディスクを除く

Not Ready：ドライブの準備ができていません。

Unknown Media：不正なMOディスクです。

### 【オプション一覧】

/INFO[=level]	modisk.sysと同じ
/NOLOCK	modisk.sysと同じ
/ID=<id>[,<id> [,...]]	本製品や他のSCSI機器が使用しているSCSI-IDを指定します。 例) SCSI-IDの0,1を使用している場合 /ID=0,1
[(<Partitions>)]	このスイッチが指定されていない場合には、すべてのSCSI-IDを検索して使用可能なデバイスを探します。  <Partitions>は、割り当てる論理ドライブ数を1~4の範囲で指定します。この指定が省略された場合には、/PARTITIONスイッチで指定した数の論理ドライブが割り当てられます。  例) SCSI-IDの2に、論理ドライブを3個割り当てる場合 /ID=2(3)

/ID=<id>[,<id> [,<id>]] [(<Partitions>)]	また、<id>は以下の形式でも記述できます。 <HostAdapter#><SCSI-ID> または <HostAdapter#><SCSI-ID><LUN> <HostAdapter#> . . . 0~9 (SCSI ホストアダプター番号) SCSIインターフェイスを複数使用する場合、 各SCSIインターフェイスに割り当てられて いる番号 <SCSI-ID> . . . . . 0~7 (SCSI-ID) 各SCSIインターフェイスで使用しているSCSI 機器のSCSI-ID <LUN> . . . . . 0~7 (論理装置番号) 6連装CD-ROMドライブなど、複数のドライブ を切り替えて使用するSCSI機器の論理装置 番号 <HostAdapter#>は通常「0」となります。（PC-9821シリーズで SCSIインターフェイスを複数使用する場合は、ASPIマネージャが 別途必要になります。） 例) SCSI-IDの0,1を使用している場合 /ID=00,01 または /ID=000,010
/LUN	modisk.sysと同じ
/ASPI	modisk.sysと同じ
/PAUSE	modisk.sysと同じ
/WCACHE	modisk.sysと同じ
/NOWCACHE	modisk.sysと同じ
/IGNERR	modisk.sysと同じ
/US	modisk.sysと同じ
/NOEXCLUDE	modisk.sysと同じ
/PARTITION =<Partitions>	各物理ドライブに割り当てる論理ドライブ数のデフォルト値を 指定します。（/ID=<id>(<Partitions>)指定されていない物理ドライブ で、このオプションが有効になります。）<Partitions>に指定でき る値は1~4で、デフォルト値は1です。

Modiskx.sysの組み込み時に[CTRL]キーを押していると、組み込みを中止できます。

最大4台までの物理ドライブで最大16個の論理ドライブを制御できます。  
ただし、modiskx.sysの組み込み時に、ドライブ名が「Z:」を越えた場合  
は、以降のドライブは無視されます。

## ● MOUTL.EXE

このプログラムはMS-DOSコマンド入力状態からオプションを付けて以下のように直接起動することができます。

オプションを指定せずに起動すると、メニュー形式で処理を選択・実行することができます。

プログラム名 **moutl.exe**  
 書式 **moutl [オプション] [ドライブ指定またはモード指定]**

### 【ドライブ指定】

処理を行うドライブを指定します。MS-DOSのドライブ名で指定する場合は  
 <drive>: の形式（該当するドライブ装置全体が対象となる）、SCSI-IDで指定  
 する場合は #<SCSI-ID> の形式で指定します。

### 【オプション一覧】

?	オプションの簡単な説明を表示します。
E	指定ドライブのディスクをイジェクトします。
P	指定ドライブのイジェクトを禁止します。
A	指定ドライブのイジェクトを許可します。
I	指定ドライブのディスクタイプを表示します。
LUN	論理装置の1番から7番までを使用する場合に指定します。
US	強制英語表示指定 (DOS/Vマシン日本語表示環境でも英語表示をします。)
L	本製品のドライブリストを表示します。 表示例) MOF-RM640の場合 D: HA:0 ID:2 M0ディスク FUJITSU MCE3064SS D: ..... ドライブ名(複数パーティションになっている場合は先頭ドライブ名) HA:0 ..... ホストアダプター番号(通常は「0」) ID:2 ..... SCSI-ID M0ディスク ..... デバイス種別 FUJITSU ..... ベンダー名称 MCE3064SS ..... ドライブの製品名
ASPI	PC-9800シリーズでASPIマネージャを使用する際に指定します。 ※ PC-9800シリーズ上で、MOF-ABシリーズと併用する場合や SCSI PCカードに接続する場合は、必ず指定してください。
CACHE [R{+/-}][W{+/-}]	本製品のキャッシュ設定状態を変更します。 R+..... リードキャッシュON R-..... リードキャッシュOFF W+..... ライトキャッシュON W-..... ライトキャッシュOFF

## MOUTLの使い方

ここでは添付のMOUTLの使い方を説明します。MOUTLでは本製品の接続状況の確認や、MOディスクのフォーマットなどを行うことができます。

### 1 本製品の電源を入れ、パソコンを起動します。

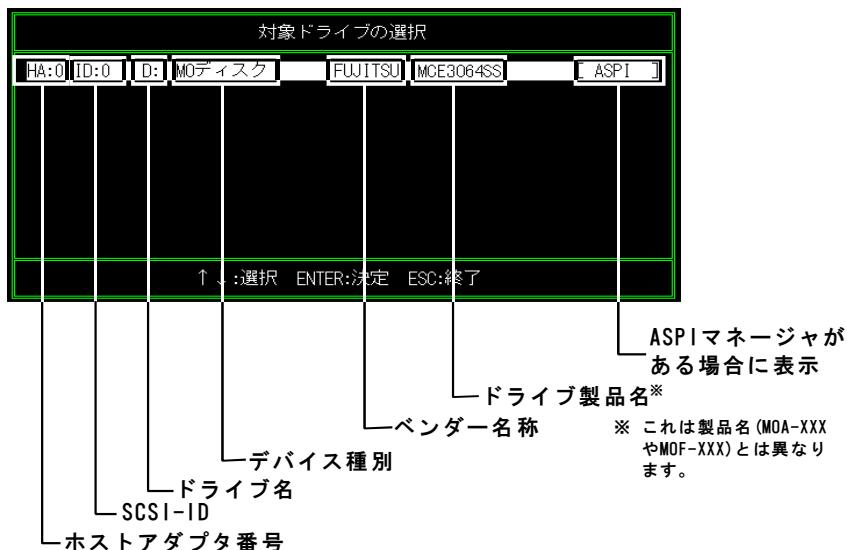
### 2 MOUTLを起動します。

以下のように入力し、**□**キーを押します。

通常 MOUTL

PC-9800シリーズで  
SCSI PCカードに接続 MOUTL /ASPI

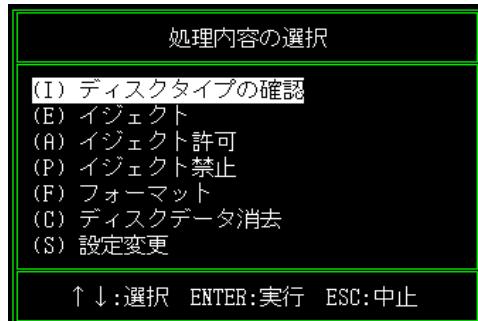
### 3 [↑][↓]キーで本製品を選び、**□**キーを押します。



## 4 本製品にMOディスクをセットします。

アクセスランプが一度点灯して消灯することを確認してください。

## 5 [↑][↓]キーで処理内容を選び、[➡]キーを押します。



- (I) ドライブ内のディスクが、どのフォーマット形式に従ってフォーマットされているかを判別します。
- (E) ドライブ内のディスクをイジェクトします。
- (A) 無効化されたイジェクトボタンを有効にします。  
イジェクトボタンによるイジェクトが可能になります。
- (I) イジェクトボタンを無効化します。  
イジェクトが許可されるまで、イジェクトボタンは効かなくなります。
- (Fページ) ドライブ内のディスクをフォーマットします。  
【フォーマットしよう】(85ページ) 参照
- (C) ディスクのデータを消去します。
  - ・簡易データ消去 (ディスク管理情報部分のみを消去)
  - ・完全データ消去 (ディスク上のすべての情報を消去)M0モードでフォーマットしたMOディスクをハードディスクフォーマットしたいときには、フォーマット前に「完全データ消去」を行ってください。
- (S) キャッシュの設定を変更します。  
リードキャッシュ、ライトキャッシュの設定は、通常「有効」です。  
モードスイッチでの設定より優先されます。

## 6 作業終了後、[ESC] キーを何回か押し、MOUTL を終了します。

# 用語解説

## HDDモード [ハードディスクドライブモード]

通常のハードディスクと同じ形式でフォーマットされたM0ディスクへのアクセスができます。すでにこの方式のM0ディスクをお使いの場合や、この方式でのデータのやり取りが必要な場合に使用します。通常は使用しません。

## M0モード [エムオーモード]

「スーパーフロッピーフォーマット」でフォーマットされたM0ディスクへのアクセスができます。M0ディスクに格納されたファイルはハードディスクのファイルと同様に読み書きすることができます。

## SCSI [スカジー] (Small Computer System Interface)

パソコンとハードディスク、CD-ROMドライブ等の周辺機器を接続するためのインターフェイス規格です。

## オーバーライト

オーバーライト対応のM0ディスクを使用すると従来のM0ディスクよりも高速に書き込みを行う事が出来ます。

従来はM0ディスクへのデータ書き込みまでに消去、書き込み、内容確認の3工程を行わなければなりませんでした。

しかし、オーバーライト方式ではデータの消去と書き込みを同時にすることによって工程を1つへらして高速化を可能にしました。

## スーパーフロッピーフォーマット

本製品添付ユーティリティ(M0フォーマット、moutil.exe)での論理フォーマット形式またはWindows 98/95での標準フォーマット形式のことです。  
(「IBMフォーマット」または「セミIBMフォーマット」という場合もあります。)

## ターミネータ

SCSIインターフェイスに接続する最後のSCSI機器には、ターミネータを接続しなければなりません。

ターミネータを接続せずに使用すると、誤動作や故障の原因になります。

# オプション品について

## ●SCSI接続ケーブル（ハイ・インピーダンスタイプ）

型番	長さ	タイプ
A50-A50	75cm	D-subハーフピッチ50ピン ⇄ D-subハーフピッチ50ピン
A50-A50-M	50cm	
A50-A50-S	30cm	
A50-A50-SS	10cm	
A50-H50	75cm	D-subハーフピッチ50ピン ⇄ アンフェノールハーフピッチ50ピン
A50-H50-S	30cm	
F50-A50	75cm	アンフェノールフルピッチ50ピン ⇄ D-subハーフピッチ50ピン
AP30-A50	48cm	HD130ピン ⇄ D-subハーフピッチ50ピン
CBSC II-A50-L※	75cm	専用25ピン ⇄ D-subハーフピッチ50ピン

弊社製CBSC シリーズ、PCSC-Fシリーズ専用ケーブル。

デイジーチェーン接続にはご使用いただけません。

50cmのデイジーチェーン接続可能なケーブルをバージョンアップ窓口にて案内しております。ご入用の場合はお問い合わせください。

## ●ターミネータ、変換コネクタ

型番	タイプ
TA-A50	アクティブ・ターミネータ D-subハーフピッチ50ピン
AD-SC/AH	変換コネクタ D-subハーフピッチ50ピン(メス) ⇄ アンフェノールハーフピッチ50ピン(オス)
AD-SC/HA	変換コネクタ アンフェノールハーフピッチ50ピン (メス) ⇄ D-subハーフピッチ50ピン(オス)

# ハードウェア仕様

## ●MOF-RM1300

	MOF-RM1300
インターフェイス仕様 (最大)	Ultra SCSI/SCSI-2 20M/バイト/Sec <sup>※1</sup> (同期転送), 5M/バイト/Sec (非同期転送)
使用可能MOディスク	128/230 <sup>※2</sup> /540 <sup>※2</sup> /640 <sup>※2</sup> /1300M/バイト
セクタサイズ	・128/230/540M/バイトのMOディスクは <u>512/バイト</u> ・640/1300M/バイトのMOディスクは <u>2048/バイト</u>
シークタイム (平均)	23ms
MOディスク回転数	・128/230/540/640M/バイトのMOディスクは <u>4558rpm</u> ・1300M/バイトのMOディスクは <u>3214rpm</u>
データ転送速度(最大)	5.92M/バイト/sec
バッファサイズ	2M/バイト
動作温度	+5°C～+35°C (パソコンの動作する範囲であること)
動作湿度	20%～80% (ただし結露なきこと)
消費電力	5.0W (最大15.0W)
本体サイズ	36(W) × 265(D) × 122(H) mm
本体質量	約1.4kg

## ●MOF-RM640, MOF-SM640

	MOF-RM640	MOF-SM640
インターフェイス仕様 (最大)	Ultra SCSI/SCSI-2 20M/バイト/Sec <sup>※1</sup> (同期転送), 5M/バイト/Sec (非同期転送)	Ultra SCSI/SCSI-2 20M/バイト/Sec <sup>※1</sup> (同期転送), 5M/バイト/Sec (非同期転送)
使用可能MOディスク	128/230 <sup>※2</sup> /540 <sup>※2</sup> /640M/バイト <sup>※2</sup>	
セクタサイズ	・128/230/540M/バイトのMOディスクは <u>512/バイト</u> ・640M/バイトのMOディスクは <u>2048/バイト</u>	
シークタイム (平均)	23ms	
MOディスク回転数	4558rpm	3600rpm
データ転送速度(最大)	4.96M/バイト/sec	3.92M/バイト/sec
バッファサイズ	2M/バイト	
動作温度	+5°C～+35°C (パソコンの動作する範囲であること)	
動作湿度	20%～80% (ただし結露なきこと)	
消費電力	7.0W	
本体サイズ	36(W) × 265(D) × 122(H) mm	
本体質量	約1.4kg	

### ●MOA-SM640W

MOA-SM640W	
インターフェイス仕様 (最大)	Ultra SCSI/SCSI-2 20M/バイト/Sec <sup>※1</sup> (同期転送), 5M/バイト/Sec (非同期転送)
使用可能MOディスク	128/230 <sup>※2</sup> /540 <sup>※2</sup> /640M/バイト <sup>※2</sup>
セクタサイズ	・128/230/540M/バイトのMOディスクは512バイト ・640M/バイトのMOディスクは2048バイト
シークタイム (平均)	23ms
MOディスク回転数	3600rpm
データ転送速度 (最大)	3.92M/バイト/sec
バッファサイズ	2M/バイト
動作温度	+5°C～+35°C (パソコンの動作する範囲であること)
動作湿度	20%～80% (ただし結露なきこと)
電源	5V 2.2A (ACアダプタ)
本体サイズ	33(W) × 187(D) × 117(H) mm
本体質量	約870g

### ●MOF-RM230, MOF-SM230

	MOF-RM230	MOF-SM230
インターフェイス仕様 (最大)	Ultra SCSI/SCSI-2 20M/バイト/Sec <sup>※1</sup> (同期転送), 5M/バイト/Sec (非同期転送)	Ultra SCSI/SCSI-2
使用可能MOディスク	128/230M/バイト <sup>※2</sup>	
セクタサイズ	512 バイト	
シークタイム (平均)	23ms	
MOディスク回転数	4558rpm	3600rpm
データ転送速度 (最大)	2.65M/バイト/sec	2.1M/バイト/sec
バッファサイズ	2M/バイト	
動作温度	+5°C～+35°C (パソコンの動作する範囲であること)	
動作湿度	20%～80% (ただし結露なきこと)	
消費電力	7.0W	
本体サイズ	36(W) × 265(D) × 122(H) mm	
本体質量	約1.4kg	

※1 SCSI-2使用時は10M/バイト/Secとなります。

※2 オーバーライト対応ディスクを含む。

# サポートセンターへのお問い合わせ

## 本製品に関するお問い合わせ

弊社サポートセンターへのお問い合わせはユーザー登録された方に限ります。

### ■お知らせいただく事項

1. お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号及びFAX番号
2. ご使用の弊社製品名と、サポートソフトウェアディスクのシリアルNo.  
(本書の巻末に貼ったVerシールに印刷されています。)
3. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
4. ご使用のOSとアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名。
5. 現在の状態(どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。画面の状態やエラーメッセージなどの内容)。

## 《連絡方法》

### ■オンライン

インターネット	<a href="http://www.iodata.co.jp/support/">http://www.iodata.co.jp/support/</a> 「サポートセンターお問い合わせ」内のフォームを使用してメールをお送りください。
@nifty	アイ・オー・データステーション(SIODEATA)サポート会議室

### ■郵便

住所 〒920-8513  
石川県金沢市桜田町2丁目84番地 アイ・オー・データ第2ビル  
株式会社アイ・オー・データ機器  
サポートセンター「MOA-SM640W・MOF-RM/SMシリーズ」係 宛

### ■電話

電話番号 本社 076-260-3366 東京 03-3254-0301  
受付時間 9:30~19:00 月~金曜日(祝祭日を除く)

### ■FAX

FAX番号 本社 076-260-3360 東京 03-3254-9055  
宛先 株式会社アイ・オー・データ機器  
サポートセンター「MOA-SM640W・MOF-RM/SMシリーズ」係 宛

本製品に関するお問い合わせはサポートセンターのみで行っています。  
予めご了承ください。

## B'sCrew Backup for Windowsに関するお問い合わせ

### B'sCrew Backup for Windowsに関するお問い合わせ

B'sCrew Backup for Windowsに関しては、  
株式会社ビー・エイチ・エーまでお問い合わせください。

#### お問い合わせ先

株式会社ビー・エイチ・エー サポートセンター

TEL 06-6378-3568

FAX 06-6378-3336

受付時間：月～金曜日 10:00～12:00 13:00～17:00  
( 夏期・年末年始特定休業日、祝祭日を除く )

## B'sCrew Backup for Windowsのバージョンアップ

ビー・エイチ・エー社製「B'sCrew Backup for Windows」のバージョンアップ  
サービスは弊社では行っておりません。

バージョンアップをご希望の場合は添付の「ビー・エイチ・エー社 ユーザー登録  
ハガキ」にてユーザー登録を行ってください。

また、(株)ビー・エイチ・エー社のホームページでもバージョンアップができます。

(株)ビー・エイチ・エー社のホームページ

<http://www.bha.co.jp/>

## サポートソフトのバージョンアップ

入手方法は以下の通りです。なお、当サービスはユーザー登録された方のみが対象です。

### ■オンライン

イターネット @nifty	<a href="http://www.iodata.co.jp/">http://www.iodata.co.jp/</a> → 「サポート・ライブ」 アイ・オーティ・ステーション(SIODATA)のライブ(LIB 5)
------------------	--

### ■サービス窓口からの郵送

下記の窓口までお問い合わせください。（送料及び手数料はお客様負担）

住所 〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地 アイ・オーティ・第2ビル  
株式会社アイ・オー・データ機器  
「MOA-SM640W・MOF-RM/SMシリーズ」  
サービス窓口 宛

電話番号 076-263-7070

受付時間 9:30～12:00 13:00～17:00 月～金曜日(祝祭日を除く)

### ご注意

- オンラインによるダウンロードはお客様の責任のもとで行ってください。
- 添付ソフトウェアの中には、当サービス対象外のソフトウェアもあります。
- このサービスへのご質問は、弊社サポートセンターやサービス窓口ではお受けできません。

## 保証について

### ◎保証期間

- ・保証期間は、お買い上げの日より1年間です。保証期間を過ぎたものや、保証書に販売店印とお買い上げ日の記述のないものは、有償修理となります。お送りいただいた製品を検査後、有償となる場合のみ往復ハガキにて修理金額をご案内いたします。修理するか否かを送られてきた往復ハガキにご記入の上、ご返送ください。  
また、修理を受ける場合には保証書が必要になりますので、大切に保管してください。
- ・弊社が販売中止を決定してから、一定期間が過ぎた製品は、修理ができない場合があります。  
詳細は、ハードウェア保証書をご覧ください。

### ◎保証範囲

**次のような場合は、保証の責任を負いかねます。予めご了承ください。**

- ・本製品の使用によって生じた、データの消失および破損。
- ・本製品の使用によって生じた、いかなる結果やその他の異常。
- ・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障。

## 修理について

弊社製品の修理につきましては、以下の事項をご確認の上、販売店へご依頼頂くか、または下記修理品送付先までお送りくださいます様、お願い致します。

- 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。  
また、修理品のデータに関しては保証いたしかねます。
- 修理品にはご使用の環境や現在の状態（『サポートセンターへのお問い合わせ』の「お知らせいただく事項」）をお書き添えください。
- 保証期間中は無償で修理いたします。ただし、次の場合は有償となります。
  - ◇保証書がない場合
  - ◇保証書の所定事項が未記入の場合
  - ◇電源ONで挿入、抜去、逆挿入など誤った操作方法や、お買い上げ後の輸送、落下、取り付け場所の移設による破損、故障の場合
  - ◇落雷などの事故による破損の場合
  - ◇本製品を改造した場合
- 保証期間後は有償で修理いたします。  
製品によっては主要部品がユニット化（一体化）されている場合があります。  
これらの製品で故障が主要部品におよんでいた場合、各ユニットの交換を実費で行います。
- 修理品送付先

〒920-8513 石川県金沢市桜町2丁目84番地 アイ・オー・データ第2ビル  
住所 株式会社アイ・オー・データ機器  
「MOA-SM640W・MOF-RM/SMシリーズ」修理係 宛

※修理品を送付される場合は、輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材を使用してください。また、紛失等のトラブルを避けるため、宅配便または書留郵便小包でのご送付をお願いいたします。

- サービス窓口  
申し込まれた修理品の納期をお知りになりたい場合は、こちらまでお問い合わせください。

電話番号 金沢 076-260-3663  
受付時間 9:30～12:00 13:00～17:00  
月～金曜日（祝祭日を除く）